

(分) E4.1.0.1-1

文書課長 文書課發送 昭和九年七月七日	主 任 第一課	歐一機密 第一號 昭和九年七月七日	日附 附屬
	正校 (原稿) 昭和九年七月二日起草	東郷 局長	事務 同封
主 任 第一課	陸軍省 永田軍務局長	海軍省 吉田軍務局長	陸軍省 津田軍務局長
大藏省 津島理財局長	農林省 長瀬農務局長	商工省 福田商務局長	極東地方第二次五年計畫
本件ニ關シ今般在浦潮港邊總領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス	本信送付先陸軍省津島理財局長大藏省津島理財局長	昭和九年六月十八日附在浦潮館來(往機密第一五九號)中附屬書	外務省

名 件 記 録
東郷 局長
事務 同封

E-1623

極秘

東亞局

調査部

分類 E.P.1.0.1-1

公機密第六〇一號

昭和九年十月二十三日

在齊々哈爾

領事 内田 五郎



外務大臣 廣田 弘毅 殿

在滿蒙刈大使宛 十月十六日附 機密第六〇六號

左記件名公信寫送附ス

件名 師團側調査ニ係ル蘇聯ノ極東建設事業調送附ノ件

在齊々哈爾日本帝國領事館

歐亞局

第一課

昭和九年拾月廿日 接受
別紙添附

Handwritten notes and signatures

寫

機密第六〇六號

昭和九年十月十六日

在齊々哈爾

領事 内田 五郎

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆 殿

師團側調査ニ係ル蘇聯ノ極東建設事業調送附ノ件

本年七月當地師團ニ於テ調査ニ係ル「蘇聯ノ極東ニ於ケル建設事業ノ展望」入手シタルニ付一部送附ス御査閱相成リ度シ

本信寫送附先 外務大臣 在露大使 哈爾濱 武市 黒河

各總領事領事副領事

在齊々哈爾日本帝國領事館

蘇聯極東ニ於ケル建設事業ノ展望

昭和九年七月
第十六師團

在齊々哈爾日本帝國領事館

極東地方ノ建設狀況

現時地球上ニ於テ世界ノ視聽ヲ集メテ居ル建設事業ハ隣邦「ソヴ
エート」聯邦ノ經濟建設五ヶ年計畫ト我カ新興滿洲帝國ノ産業建
設計畫テアラウ

我カ滿洲帝國ノ建設事業ハ姑ク措クトシテ蘇邦ノ五ヶ年計畫ハ一
九二八年其ノ大計畫發表當時ハ世人ハ之ヲ「果敢ナキ（ホリセヒ
キー）ノ夢」トシテ其ノ妄想的ナルヲ哄笑シツツアリシモ不撓不
屈ナル共產黨ノ指導ト政府ノ彈壓強策トノ結果第一次五ヶ年計畫
モ四ヶ年二ヶ月ヲ以テ一先ツ切上ケ昨一九三三年ヨリハ第二次五
ヶ年計畫ニ入り本年ハソノ第二年度デアリ今尙建設途上ヲ躰進シ
テキルノテアル、勿論第一次計畫ノ總算モ第二次五ヶ年計畫第一

在齊々哈爾日本帝國領事館

年度ノ成集モ蘇聯邦ノ發表セルモノヲ額面通りニ之ヲ買フコトハ不可能ニ屬スルコトナルモ國ヲ擧ケテノ莫大ナル投資ト多大ノ犠牲トヲ拂テ強行實施セル此ノ建設計畫ハ相當ナル實績ヲ擧ケテキルカ如クテアル

由來蘇聯極東地方ハ蘇聯邦ノ一邊境トシテ從來餘リ中央ヨリ顧リミラレサリシ地方テアツタカ滿洲事變勃發後間モナク滿洲國ノ結成以來當地方ハ對日滿關係ヨリ生スル政治的軍略的狀勢上俄然蘇聯邦ニ採リテ重要視セラルルニ至リシモノニシテ現時蘇聯邦カ本地方一帶ノ國境地區ニ極東赤衛軍十五萬以上ト飛行機五百台戰車三百ト云フ優勢ナル兵力ヲ集結シ「他國ノ土地ハ一尺タリトモ欲セス自國ノ領土ハ一寸タリトモ與ヘス」ト云フ「スターリン」ノ

在齊々哈爾日本帝國領事館

標語ヲ掲ケテ金城鐵壁ノ護ヲ爲シテキルコトニ依リテモ容易ニ其ノ重要性ヲ窺知スルコトカ出來ルテアラウ

斯クノ如ク極東地方ハ從來軍略的的政治的經濟的見地ヨリ殆ント重要視セラレサリシ關係上蘇聯ノ第一次五ヶ年計畫ニ際シテモ其ノ建設計畫ヨリ全ク除外サレ「バイカル」湖以東ニ於テハ舊態依然トシテ何等工業的施設ヲ見ルコト能ハサリシ狀態ニアツタノテアル

然ルニ第二次五ヶ年計畫ニ入ルヤ蘇聯邦ハ共產黨ノ「テーゼ」ノ示ス如ク第二次五ヶ年計畫ノ重點ヲ「ウラル」以東ニ指向シ「ウラル」ノ「マクニストロイ」完成「ノガホシビリスク」ノ「クズバス」擴張開發「イルクーツク」附近ノ「アンガラストロイ」

在齊々哈爾日本帝國領事館

極東ノ「ブルストロイ」ノ建設計畫ニ着手シ又全面的ニ極東地方ノ開發計畫ヲ開始シ第二次五ヶ年計畫ノ總投資額一千三百三十億留ノ中其ノ過半ヲ「ウラル」以東ノ建設ニ投スルモノナリト云フ今蘇聯極東地方ノ建設計畫ヲ通觀スル時之ヲ大略左ノ三大建設ニ分類スルコトカ出來ル

一、主要工業建設

二、「ブールストロイ」

三、鐵道建設

右諸建設ニ關シ概述スレハ左ノ通りテアル

一、極東主要工業建設

極東ノ首府哈府ヲ中心トシテ極東地方各種主要工業ノ據點^ニ十

在齊々哈爾日本帝國領事館

二工場ヲ創設スルモノニシテ其ノ投資額十八億三百萬留ニシテ全工場ハ早キモノハ六月週クモ本年中ニハ完成スヘキ計畫^テアル

今二十二工場名ヲ列舉スレハ左ノ通りテアル

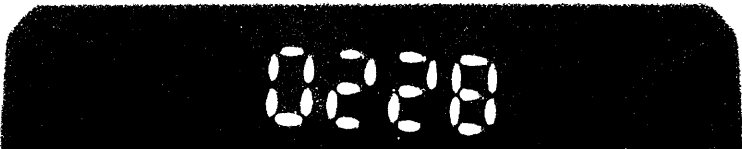
一、哈府製油工場（「ネフテストロイ」）哈府

北樺太油田ノ原油ヲ海路及「アムール」ニ依リ（將來ハ哈府

尼港鐵道ニ依リテモ）哈府ニ輸送シ本工場ニシテ將來極東ニ於ケル軍需工業ノ一大據點トナリ又地方ノ燃料經濟ニ一大革新ヲ齎ラスモノトシテ最モ注目スヘキ建設テアル

目下建設ノ途上ニアルモ其ノ製油能力内容等ハ總テ秘密ニ屬シ外人ノ窺知ヲ許サス

在齊々哈爾日本帝國領事館



2、自動車修理工場（「アフトレムガウオド」）哈府
 本工場ハ「イルクーツク」ニ於ケル自動車工場ト同一型ノモ
 ノニシテ主トシテ自動車「トラツク」等ノ根本的修理ヲ行フ
 最新式ノ電化工場テ莫斯科ノ国立自動車工場設計研究所「
 ギプロアフトランス」ノ設計ニナルモノテアル既ニ其ノ
 一部ハ完成シ作業ヲ爲シテ居リ本年八九月頃完成ノ豫定
 其ノ修理能力ハ秘密ニ屬シ發表サレテキナイ本工場ニ對スル
 全投資額四千七百萬留

3、哈府發電所 哈府
 一昨年ヨリノ繼續事業ニシテ本年三月漸ク發電ヲ開始シタ哈
 府市民數年振リテ^{（手ヲ）}暗黒地界ヨリ光明ヲ得タノテアル

在齊々哈爾日本帝國領事館

4、極東農具工場（「ダリセリマシーブ」）哈府
 極東地方ニ於ケル所謂機械化農業ノ各種農具生産ヲ行フ工場
 ニシテ本工場完成ノ曉ハ極東ノ農業ノ機械化「テンポ」ニ一
 段ノ拍車ヲ掛ケルモノト期待サレテキル

5、哈府製粉合同（「メリコンピナート」）哈府
 新式大規模ノ製粉工場ニシテ本工場建設ノ爲メ昨夏歐露ヨリ
 數名ノ専門技師カ到着シ目下職工、労働者一、五〇〇名カ作
 業中、極東地方第一ノ製粉場ニシテ一晝夜ノ製粉能力二〇〇
 噸ノ計畫ナリ

6、製粉合同（「メリコンピナート」）「ホブカレワオ」
 哈府ト同一ノ製粉工場ニシテ昨夏莫斯科ヨリ専門技師到着シ

在齊々哈爾日本帝國領事館



哈府ト同時ニ建設ニ着手シ目下哈府ノ工場ト建設ノ社會主義競争ヲ行ツテ居ル本年九月完成ノ豫定—製粉能力哈府ニ同シ

7、製糖工場（「サフストロイ」）尼烏市

極東最初ノ砂糖工場、從來極東地方ニハ製糖工場ナク砂糖ハ總テ歐露若クハ外國ニ供給ヲ仰イテキタカ蘇聯當局カ沿海州ノ甜采ニ注目シ研究ノ結果本工場設立計畫カ實現シタノデア

ル本工場カ所定ノ生産品ヲ出スニ至レハ現在極東ノ砂糖饑饉ハ若干緩和サルルニ至ルテアラウ 本年度ハ三、一〇〇「ヘクタール」ヨリ三〇萬「セントネル」ノ甜采ヲ收穫、一日ノ生産能力十貨車ノ計畫テアル

本年十月完成ノ豫定

在齊々哈爾日本帝國領事館

8、セメント工場「スバスク」

「スバスク」ハ從來極メテ小規模ノ舊式セメント工場カアツタカ其ノ生産力ハ問題トナラス「セメント」ハ主トシテ日本及歐露ヨリ輸入シテ居タカ近年急激ナル極東國境ノ防備工事ト各種建設工事ノ需要ヲ充ス能ハサルヲ以テ一九三二年ヨリ計畫シ舊來ノ工場ニ根本的改造ヲ加ヘツツアルモノテ本年六月竣工ノ豫定、計畫ニ依レハ本年度改造建設完成スレハ一年二〇萬樽乃至五〇萬樽ノ生産能力ヲ有シ更ニ擴張シテ年九〇萬樽ヲ生産シ得ルニ至ラシムルト云フ

9、製油工場（「ダリチーリマースロ」）尼烏市

蘇聯ニ於テ蘇聯邦第三位ノ製油工場ニシテ其ノ能力年三萬五

在齊々哈爾日本帝國領事館

10

千噸ノ沿海州大豆ヨリ六萬五千「セントネル」ノ製油ヲ爲ス
モノテアル

10、石灰工場「ロンドロ」

「ロンドロ」ハ烏鐵本線ノ一驛ニシテ「ピロビツヂヤン」區
ニ在ル新興都市、本石灰工場ハ極東建設材料「トンスト」ノ
管轄ニ屬シ極東各種建設ニ邁對シ其ノ生産品ヲ供給スルモノ
テアル

現在建設中ナルモ一爐ハ既ニ作業ヲ開始シ本年ノ生産計畫約
一萬噸テアル全部完成セハ年生産量一五、〇〇〇噸テアル
本工場ニ對スル本年度投資額一四〇萬留テアル

11、「ビスケット」工場 武市

在齊々哈爾日本帝國領事館

11

現在極東地方ニ於テハ菓子缺乏シ「コオベラテーフ」ニ於テ
モ小兒ニ對スル菓子類ノ配給ニ代フルニ粗悪ナル軍隊ノ乾麩
麩ヲ以テシテキル所カ多イ本工場ハ聯邦供給係省ノ國營工場
ニシテ供給省ハ本工場ニ對シ既ニ二百萬留ノ支出ヲ爲シテ居
リ本年九月一日迄ニハ完成ノ豫定テアル「ビスケット」其ノ
他菓子類ノ生産ヲ爲スモノニシテ本工場完成セハ兒童ニ對ス
ル營養糖分ノ供給ハ若干改善ヲ見ルテアラウ

12、「ストラゼフカ」造船所「ストラゼフカ」

「ストラゼフカ」トハ「セーヤ」河ト烏蘇里鐵道ノ交叉點ニア
ル河港ニシテ從來ノ造船所ヲ擴張シ大船廠ヲ新設シ汽船ノ建
造修理作業ニ當ルモノテアル

在齊々哈爾日本帝國領事館

13、煉瓦工場「ウーゴリナヤ」
 從來極東地方ニ於ケル煉瓦工場類ハ十指ヲ出テス而モ全能力ヲ舉ケテ作業スルモノハ其ノ半數ニ達シナイ狀況テ其ノ生産能力ハ殆ト極東ノ建築造營ヲ不可能ナラシメタ最近極東ノ大建築族生計畫ニ依リ本工場ノ計畫カ實現サレルコトトナリタルモ本工場完成ノ曉果シテ幾何ノ需要ヲ充シ得ルヤ斯業ノ熟練工殆ト散逸セル際其ノ生産能力ニハ多大ノ疑問カ有タレテキル

14、「アルテヨム」第六堅坑「アルテヨム」
 「アルテヨム」ハ烏鐵本線「ウーゴリナヤ」驛ノ東北十數軒ニ在ル極東ノ新興炭鑛都市ニシテ現在ノ人口約二萬、炭鑛ノ

在齊々哈爾日本帝國領事館

位置ハ「ウーゴリナヤ」蘇城線ニ極メテ近ク炭質モ比較的良好ナルヲ以テ當局ハ本坑ノ採掘ニハ力瘡ヲ入レ今回更ニ新堅坑ヲ開掘シ採炭事業ノ擴張ヲ計ルモノテアル

15、「キウダ」第十六堅坑「キウダ」
 「キウダ」炭鑛ハ烏鐵本線「ブレーヤ」驛ノ西方十五軒ニ在リ褐炭ナルモ炭質良好炭量豐富ニシテ黑龍州地方工業並ニ一般燃料ニ意義ヲ有シテ居リ今回新堅坑ヲ増設シ事業ノ擴張ヲ計ルモノテアル

16、「ライチーハ」炭鑛開掘「ライチーハ」
 同炭鑛ハ「キウダ」炭鑛ノ西南約三軒ノ地點ニ存在シ「キウダ」坑ト等シク「ブレーヤ」炭田系ニ屬スルモノテ褐炭埋藏

在齊々哈爾日本帝國領事館

量五億噸ト稱セラル

本年ヨリ既ニ採炭ニ着手シ二月迄約三萬五千噸ノ出炭ヲ見タ
出炭計畫ハ三十四萬噸テアル本年度ノ
 一九三四年度ノ投資額ハ第一回五百萬留テアツタカ機械採炭
 連炭線ノ敷設坑内軌道ノ敷設連炭車ノ新造等ノ爲毎年五百萬
 留ノ支出カ豫定サレテキル

目下一千「キロワット」ノ能力ヲ有スル發電所建設中テ此ノ
 外機關庫煉瓦工場材料庫等ノ計畫カアル

17、製鹽工場（「ソリトレスト」）「デリミン」

由來極東地方ニハ岩鹽ノ產地極メテ少ク現在ニ於テモ民衆ハ
 鹽ノ缺乏ニ苦シムコトハ全ク想像外テアツタ 此處ニ於テ蘇
 聯當局ハ兼テヨリ海水ヨリ鹽ヲ採ルコトヲ研究中テアツタカ

在齊々哈爾日本帝國領事館

最近其ノ成算ヲ得テ本年度ヨリ初メテ「デリミン」ニ製鹽工
 場ヲ創設シ極東ノ鹽ノ自給問題ヲ解決セントスルモノデア
 18、尼市發電所 尼烏市

19、冷蔵庫工場 浦 鹽

20、製練工場 「ワマルナン」

21、製麵麩工場 浦 鹽

22、製麵麩工場 尼烏市

上述二十二工場ノ建設ハ哈府ノ發電所ヲ除ク外全部本年中ニ完
 成スヘキ計畫ナルモ現在迄ノ建設進展ヲ觀ルニ相渝ラス宣傳ノ
 掛聲ノミ大ニシテ實績舉ラス殆ント總テノ建設工程ハ停滯遲々
 トシテ進捗セサル情況デア
 アル

在齊々哈爾日本帝國領事館

試ミニ上記主要建設ノ二月迄ノ計畫遂行率ヲ一瞥スルニ第一回
半期計畫ニ對シテ最高二三〇%ヨリ最低二、八%ノ間ヲ上下ス
ル哀レムヘキ數字ヲ示シテキル例ヘハ聯邦供給省所管建設ノ中
一月中ノ遂行率ヲ示セハ左ノ通りテアル

- イ、尼市製糖工場 二〇、五% (第一回半期)
- ロ、尼市製油工場 二二、〇% ()
- ハ、「テリミン」製鹽工場 二、八% ()
- ニ、哈府製粉工場 二二、八% ()

即チ聯邦供給省所管建設ノ計畫遂行率平均ハ第一回半期計畫ノ
一七%強ニ當ルニ過キナイ斯クノ如ク建設計畫遂行ノ恥辱的數
字ハ何ニ據リテ齎ラサレタカヲ檢討スレハ次ノ數點ニ歸スルコ

在齊々哈爾日本帝國領事館

トカ出來ル

主管省カ適時ニ投資ヲ爲ササリシコト

例ヘハ重工業省ハ新建設ニ對シ一月中ニ一回半期ノ投資額三三

%ヲ投資スヘキニ拘ラス僅々一二、二%ヨリ投資シテホナイ

其ノ他ノ省モ大同小異テ計畫通り投資セルモノハ一省モナイ

ハ烏蘇里鐵道運輸能力ノ低劣ナルコト

極東各地ニ存在スル之等多數ノ建設ニ對シテ機關其ノ他ノ建設
材料運輸ノ任ニ當ル烏鐵ノ運行成績カ建設ノ進度ニ對シ決定
役割ヲ演スルコトハ敢テ贅言ヲ要シナイ、然ルニ烏鐵ノ運行狀
態ハ寔ニ驚異的劣悪ヲ示シテキル
烏鐵ノ運輸計畫遂行率ハ

在齊々哈爾日本帝國領事館

一月一八、五% 二月一三、八%計二二、三%（第一回半期ノ）即チ第一回半期ノ豫定計畫六七%ノ三分ノ一ニ達シナイ
 尤モ右二ヶ月ノ輸送成績ハ赤軍ノ極東集結ノ最盛時ニ遭遇シ莫大ナル軍事輸送ノ爲例年ノ當該期間ニ比シテ著シク輸送成績ノ劣悪ナルコトハ考慮スヘキテアル
 ハ、其ノ他運輸機關ノ無統制ナルコト
 烏鐵以外ニ之等建設ノ爲メニ建設材料ヲ運搬スヘキ自動車「トラック」馬車輸送ノ無統制振リニハ實ニ驚クヘキモノカアル
 右二十二建設ハ本年中ニ完成スヘシトノ政府ノ命令ナルニ拘ラヌ三月中即チ最モ輸送ニ便ナル結氷期間中ニ於テ當事者ハ輸送計畫ヲ無視シ基礎建築ニ必要ナル木材、砂利、煉瓦、砂切石等

在齊々哈爾日本帝國領事館

ノ材料ノ現場輸送ノ實務ヲ果シテキナイ
 例ヘハ「ボチカレウオ」製粉工場ノ所要材料ハ「プレーヤ」ニ五〇〇立方米「チニスノコムスカヤ」ニ煉瓦十萬枚同地ニ木材三〇〇立方米武市ニ挽材一〇〇立方米カ準備サレテキルニ拘ラス少シモ現場ヘノ輸送カ實施サレテキナイ
 哈府其ノ他ノ建設ニモ同様ナ現象カ付纏ヒ材料輸送ノ滯滞ハ建設ノ根本的障礙ヲ爲シテキル
 ニ、黨指導ノ不徹底且ツ拙劣ナルコト
 蘇聯ニ於ケル全事業ノ絶對的指導ハ黨員之ニ當リ黨員候補者及「コムソモル」ハ之カ補助ヲ爲スノテアル
 然ルニ極東地方ニ於ケル現在黨員數ハ二萬人ニ過キス 而シテ

在齊々哈爾日本帝國領事館

此ノ少數黨員カ極東ノ全機關内ニ配置サレアルヲ以テ新建設方面ニ於テ指導スル黨員數ハ少數テアル
 例ヘハ「ホチカレウオ」製粉合同ノ建設ニハ僅カ二十三名「コムソル」三十名カ配置サレテキルカ建設現場ニ於テ直接作業ノ指導監督ニ携ツテキル黨員ハ一名モナイ僅カニ「コムソル」カ土工作業ニ四名鍛冶職場ニ二名居ルニ過キス他ハ總テ數軒離レタ市内ノ事務所労働者供給支部俱樂部等ニ坐リ込ミ盲判ヲ押シ書類上ノ指導ニ止リ所謂官僚的指導ニ没頭シ實際的指導監督ノ任ニ當ツテキナイ又哈府製粉合同ノ建築委員會議長ノ如キハ哈府ニ居住シ殆ント現場ニ出勤シタコトカナイトノ非難カ高イ其ノ他ノ實例ハ枚擧ニ遑カナイ要スルニ建設ノ指導監督者タル黨

在齊々哈爾日本帝國領事館

員ノ數不足ナルノミナラス之等黨員ハ所謂「ポリセビヤ」的氣魄ニ乏シク且特權的階級ノ安逸ナル生活ヲ齎^貪リアル爲メ實踐的指導ノ缺如ト拙劣ナルコトカ著シク建設ノ進捗ヲ遲滯セシメテ居ルコトハ否メナイ事實テアル
 ホ、労働力流動ノ清算サレサルコト
 極東地方産業開發上最大ニシテ最モ深刻ナル惱ミノ一ツハ絶ヘサル労働力ノ流動テアラウ本問題ハ労働者ノ物質的生活條件カ根底ヲ爲ス丈ケニ一朝一夕ノ解決ハ困難テ將來モ容易ニ清算サレ得ヘクモナイ
 労働力ノ流動ハ全露的ノ問題テアツテ一九三三年ノ十ヶ月間ニ「ドンパス」炭礦ニ就職セル労働者數二六萬人同期間中ニ他ニ轉

在齊々哈爾日本帝國領事館

出スル者二四萬人ニ及フ極東地方ハ歐露ニ比シ物資ノ缺乏甚シク労働者ノ生活條件悪シク且勞力不足ノ關係上勞力ノ流動ハ特ニ著シク極東ノ石炭礦「アルテヨム」「キウダ」炭礦等ニ於テ一年ノ礦山就職者一萬人同期間ノ轉出者一萬二千人ト云フカ如キ數字ハ稀テナイ

特ニ新建設方面ニ於テハ辛シテ所要ノ労働者ノ募集ハ爲シ得ルモ總テノ施設^著新シク不完全ナル爲メ物資ノ配給住宅ノ保證、俸給ノ支拂等カ圓滑ヲ缺ク關係上熟練工ヤ労働者ハ用捨ナク他ノ優利ナル事業方面ヘ移動シ新建設ヘ定着シ得ナイ情況テアル今ヤ極東地方當局ハ簇生スル新建設ニ要スル莫大ナル勞力ト不^著斷ノ勞力流動ヲ清算シ得サル「デレンマ」ニ陥ツテキル傾向カ

在齊々哈爾日本帝國領事館

7
看手サレル

ハ、綜合經濟組織ノ缺陷

蘇聯邦ノ現在ノ經濟政策下ニ於ケル綜合的經濟機構ハ恰モ各部分カ相互的緊密ナル關係ニ依ツテ動ク精巧ナル機械ニ喩ヘルコトカ出來ル若シ機械ノ一部分カ故障ヲ起シ活動ヲ休止スルニ至ラハ機械全部ノ活動停止乃至不圓滑ナル活動狀態ヲ招來スルモノテアル

極東地方ニ於ケル建設ハ此ノ綜合經濟機構ノ缺陷ト歪曲セラレタ活動狀態ヲ如實ニ示ス絶好ノ標本テアル

今其ノ一例ヲ哈府ノ製粉合同建設狀況ニ就イテ見ヤウ

該製粉工場建設場ニハ數十ノ技師技手並ニ約千百ノ職工労働者

在齊々哈爾日本帝國領事館

ノ大群カ居ルカ此ノ哈府ノ煉瓦工場ニ作業中ノ職工労働者ノ一部ヲ除ケハ他ノ大工、石工其ノ他ノ職工労働者ハ殆ント「バラツク」内テ無爲ニ過シ作業ニ従事シテキナイ何故デアラウカ基礎建築ニ使用シ得ヘキ材料カナイノテアル建築材料ハ他ノ箇所ニ準備サレテキルカ運搬サレテキナイノテアル基礎建築材料タル木材、煉瓦、砂利、砂、切石等ハ本年二月初旬迄ニハ現場ニ搬入サルヘキ計畫ナルニ拘ラス三月中旬ニ於テ其ノ計畫ハ無視サレテキル

木材ハ之ニ供給スヘキ「ホル」ト「ドルミドン」ノ製材所カ所定計畫ノ製材能力ヲ擧ケ得サルノミナラス製材所主任ハ製材品ヲ該建設ニ供給スルコトヲ拒否シテ居ルト云フ

在齊々哈爾日本帝國領事館

煉瓦ハ哈府工場テ燒イテキルカ三月一日迄十萬枚ヲ納入スヘキニ僅カ二萬五千枚ヨリ生産シテキナイ

砂利ハ六千立方米ヲ要スルニ未タ二五〇立方米ヨリ運搬サレテ居ナイ三千立方米ハ烏蘇里河ノ一島上ニ採取シテアルカ其ノ儘放置サレテアル

砂ハ四千立方米ヲ要スルニ拘ラス少シモ現場ニナイ該所要量ハ烏蘇里河畔ニ準備サレテアルカ未運搬ノ爲メ解氷期ニ入レハ運搬不可能トナルデアラウ

斯クノ如ク建設作業ノ一部門タル材料輸送カ圓滑ニ實施サレサル結果ハ數百ノ職工労働者ハ手ヲ束ネテ遊ヒ全建設ハ殆ント中止ノ止ムナキ結果ニ達着スル該建設カ一二月ノ二ヶ月間ニ於ケ

在齊々哈爾日本帝國領事館

ル計畫遂行率ハ全計畫ノ一一、六%ト云フ恥辱的數字ヲ示シテ
 材料輸送ノ停止ニ起因スト云フモ敢テ過言テハナイ又「ホチカ
 レウオ」ノ製粉合同建設ニ就イテモハ、項ニ於テ記述セルカ如
 ク同様ニシテ本現象ハ極東ノ全建設ヲ通スル一大通弊ナルノミ
 ナラス全露的ノモノニシテ恐ラク蘇聯邦産業建設ノ一大痛テア
 ラウ

以上ノ外極東地方工業建設停滯ノ原因トシテ數ヘ得ルモノニ
 極東地方黨組織ノ全建設ニ對スル指導ノ無統制ナルコト(一)勞働
 規律ノ弛緩セルコト(二)勞働組織ノ拙劣ナルコト等モアルモ此處
 ニハ一々ノ説明ノ煩瑣ヲ避ケヤウ

要スルニ本年度ニ於ケル此等二十二個ノ工業的建設モ其ノ宣傳

在齊々哈爾日本帝國領事館

ニ拘ラス上述ノ如キ幾多ノ根本的缺陷ニ禍サレアルヲ以テ計畫
 通り本年中ニ完成スヘキ見込アルモノハ極メテ少數ニシテ二十
 二工場ノ大部分ハ將來ヘ持越サルヘキ運命ニアルモノト判断サ
 レル

今此ノ埋藏量ヲ蘇聯邦ノ二大炭山タル「グズバツス」ト「ドン
 バス」及極東ノ蘇城炭礦ニ比較スレハ

炭	田	名	埋	藏	量
「グズバツス」	炭田		四	千	億噸
「ドンバス」	炭田		七	百	億噸
蘇城	炭田		二	億	四千五百萬噸
「ブルバス」	炭田		一	千	四百億噸

在齊々哈爾日本帝國領事館

即チ「ブレイヤ」炭田ノ埋藏量ハ世界及蘇聯邦第一ノ大炭田「タズバツス」ニハ一鑛ヲ輸スルモ優ニ「ドンパス」ノ二倍ニ匹適シ蘇聯邦中第二位ニ躍進シ蘇城炭礦ノ如キハ其ノ量ニ於テハ桁違ヒニシテ殆ント比較トナラヌ數字テアル

從來「ブレイヤ」炭田ノ石炭ハ其ノ質粗悪ニシテ灰分多ク工業用トシテ利用價値ナキモノト發表サレアリシモ最近二ケ年間ニ極東地質調査「トラスト」ニ依リ發見サレシ新炭層ハ數次ノ化學的分析ノ結果ハ從來ノ研究報告ヲ根本ヨリ覆シ本石炭ヨリ優良ナル該炭ヲ造リ得テ其ノ工業的利用價値ハ十分ナリト認メラレタノテアル

右ニ關シ「カスロフ」教授ハ「ブレイヤ」石炭ニ就キ左ノ通り

在齊々哈爾日本帝國領事館

聲明シテ居ル

（「ブレイヤ」炭田ノ石炭ノ大部分ハ朱羅紀上部層ノ中下部層ニ屬シ即チ蘇城炭層ノ中下部層ニ該當シ其ノ質優良ニシテ該炭製造ニ適シ灰分比較的少シ）

又「ワマルタ」河附近ノ石炭ハ數次ノ化學試驗ノ結果其ノ平均成分ハ

水分	八、二一	灰分	一三、一七
揮發分	二九、六五	コークス	四八、五七
夾雜物	〇、四〇（？）		

ヲ示シ「ブレイヤ」炭田中其ノ他ノ大部分炭層ヨリモ略同様ノ結果ヲ得而テ其ノ熱量ハ五、四〇〇六、二〇〇「カロリー」ノ

在齊々哈爾日本帝國領事館

間ヲ上下シテキル六、二〇〇「カロリー」ノ熱量ヲ有スル石炭
ハ蘇聯邦中僅カニ「ドンパス」「アンゼルキ」(「グズバス」
ノ)及蘇城炭ノ數種ニ過キサルヲ以テ「ブレイヤ」炭ノ優秀炭
タルコトハ決定的ノモノト見テ差支アルマイ尙「スコロホド
」技師其ノ他技師ノ現地踏査報告ニ依レハ「ブレイヤ」炭田ノ
炭層ハ平均二〇米ニシテ大ナルモノハ五―五〇米ニ達スル厚層
アリト云フ

要スルニ三ヶ年ニ亘ル現地踏査ト化學的研^究ノ結果ハ「ブレイ
ヤ」炭田ノ石炭ハ其ノ量ニ於テハ勿論質ニ於テモ將來小興安ノ
鐵礦ニ依ル製鐵事業ニ十分ノ利用價值アルコトヲ保證シテキル
「ブレイヤ」地方ニ石炭層ノ存在スルコトハ既ニ一八八四年有

在齊々哈爾日本帝國領事館

名ナル極東地方研究家「ミツチンドレフ」ノ調査報告ニ據リ知
ラレテキタカ一八七〇年「ワチエヅキツチ」技師モ西比利鐵道
敷設ニ際シ當地方ニ於テ石炭ヲ發見シ次イテ一八八〇年學士會
員「シニミット」氏ハ本事實ヲ確認シタノテアルカ一九〇八年
地質學者ノ「ソロボニン」ハ本地方ニ於ケル石炭ノ埋藏ヲ否定
シ一八九三〇、三一年地質學者「ボーマーレフ」ハ石炭ノ存在ハ
否定セサリシモ工業的利用價值ノナキコトヲ發表シタ、極東地
質調査「トレスト」ハ一九三二年ヨリ昨年ニ亘リ青年技師「ス
コロホート」其ノ他ヲ派遣シ現地踏査ヲ行ハシメシニ其ノ結果
ハ全ク舊來ノ諸說ヲ根底ヨリ覆シ本地方ニ於テ蘇聯邦第一ノ石
炭埋藏量ヲ發見スルニ至ツタモノテアル

在齊々哈爾日本帝國領事館

「スコロホート」ハ本年二六才僅カニ一九三〇年高等工業ヲ出
 ナ由面ノ一青年技師ニシテ彼ノ不撓不屈ナル調査研究ハ遂ニ極
 東開發ノ據點「ブルストロイ」ノ建設トシテ實ヲ結フニ至ツタ
 蓋シ極東開發史上ニ不朽ノ名ヲ止ムル殊勳者ノ一人テアラウ

2、小興安嶺鐵礦地帯

小興安嶺鐵礦地帯トハ黑龍州ノ東境ヲ走ル東部小興安山脈（「
 プレインスキー」山脈）ノ南部即チ黑龍江ト烏鐵本線トニ挾マ
 レタル地域及ヒ烏鐵線路ノ北方トヲ指スモノニシテ其ノ中心地
 ヲ爲スモノハ「キムカン」テアル

本地方ニ鐵礦ノ存在スルコトハ古クヨリ識ラレ一八六三年ニ礦
 山技師「アノソツ」氏カ本地方ヲ踏査シ鐵礦ヲ發見シテ以來幾

在齊々哈爾日本帝國領事館

多ノ専門家當地方ノ調査ヲ行ヒシモ何レモ本產地ノ貧礦ニシテ
 埋藏量ノ少量ナルヲ指摘セル結果從來世人ノ注意ヲ惹カサリシ
 モノテアル

然ルニ蘇聯邦ハ第一次五ヶ年計畫中極東地方ノ綜合的開發ヲ立
 案シ地方製鐵工業創設ノ計畫ニ基キ地方製鐵原礦ノ探索ヲ開始
 シ一九三一年始メテ「ワイトグット」氏ヲ首班トスル調査隊ハ
 本地方ノ計畫的調査ヲ行ヒシ結果本地方ノ產地ハ從來ノ鐵道南
 側ノミニ止マラス更ニ北方ニ伸張シ其ノ產鐵地區ハ頗ル廣汎ニ
 亘ルコト判明セシタメ本產地ハ俄然蘇聯當局ノ注目スルトコロ
 トナリ極東地質調査「トラスト」等ノ手ニ依リ^引續キ調査カ行
 ハレ一九三二年ニハ「ペールヴィブ」氏ノ現地調査カアリ次イ

在齊々哈爾日本帝國領事館

テ昨三三年ニハ學士院地質調査「トラスト」及樞東地質調査「トラスト」ノ合同調査カ行ハレタ本調査報告ノ結果本地方ニハ赤鐵礦ノ埋藏量約五億噸ナルコトカ明瞭トナリ又化學試驗ノ結果ハ「キムカン」「ピラコン」等ノ鐵礦カ六二%ノ鐵ヲ含有スルコトヲ證明シタ

茲ニ於テ愈々蘇聯當局ハ本地方ニ於ケル鐵ト「プレーヤ」炭田ノ石炭トヲ結ヒ付ケ當地方ニ綜合工業タル「ブルストロイ」ヲ建設シ極東開發ノ根據地タラシムルノ計畫大綱ヲ樹立スルニ至ツタノデアアル

3、「ブルストロイ」建設準備工作

一千五百億噸ノ石炭埋藏量ヲ有スル「ブリーヤ」炭田五億噸

在齊々哈爾日本帝國領事館

ノ鐵礦ヲ包含スル小興安產鐵地帯ヲ基礎トスル「ブルストロイ」ノ綜合工業建設計畫案ハ去ル四月二十三日聯邦重工業省ノ最後の確認ヲ得タ元ヨリ本建設ハ重工業省ノ管轄ニ屬スルモノナルモ本建設ト密接ナル關係ヲ有スル聯邦供給省、交通省並ニ中央石炭「トラスト」「アヤフトストロイ」(聯邦堅坑建設「トラスト」)ハ本建設ニ對シテ直接間接ニ參加シ全面的支持ヲ爲スコトニ決定シテキル

現在「ブルストロイ」建設計畫ノ大綱ハ決定シテキルカ其ノ具體的計畫ノ内容ハ未タ發表サレテキナイ

然ルニ「タツス」通信並ニ政府機關紙ノ報導ニ依レハ先ツ「ブルストロイ」當初ノ建設計畫トシテハ小興安嶺附近ニ適當ナル

在齊々哈爾日本帝國領事館

ロ、本年中ニ「ブレイヤ」驛ニ五百人收容ノ「バラック」數棟出張者宿泊所、醫務室、食堂、浴場、洗濯場、廐舎、自動車庫數棟「チエグングダ」交信用ノ無電台、飛行場「ブルストロイ」建設事務所及貨物食糧品倉庫ノ建設カ行ハレル

ハ、「チニダングダ」ハ「ブルストロイ」建設ノ要點ナルヲ以テ小規模ナルモ略「ブレイヤ」ト同様ノ建築カ實施サレ營處ハ今後引續キ行ハレル「ワルガン」「ウマルチン」地方ノ現地調査隊及「ブレイヤ」炭田開發ノ根據地トナルモノテアル

ニ、「ブルストロイ」管理局ハ本年中ニ補助企業トシテ製材工場、^貳技術工場一、發電所貳、木材伐採場ヲ組織シ且^ツ通路調査水路交通ノ管理並「チエグングダ」其ノ他現場方面トノ無電ニ依

在齊々哈爾日本帝國領事館

地ヲトシテ（製鐵所設置地點ハ目下調査中テアル）年産額六〇萬噸ノ製鐵能力ヲ有スル溶礦爐ヲ建設シ漸次擴張ノ豫定テアルト云フ

「ブルストロイ」ノ建設準備事業ニ對シ四月中ニ本年度第一回資金トシテ重工業省ハ一千萬留中央石炭「トラスト」ハ三百萬留ノ支出ヲ爲シテキル

現在迄「ブルストロイ」ノ建設準備工作ニ對シ諸新聞ノ報導スル斷片の情報ヲ蒐集スレハ左ノ通りテアル

イ、三月九日莫斯科發「タツス」通信ニ據レハ「ブルストロイ」ノ製鐵所ノ設計ハ目下莫斯科ノ國立金屬工場設計研究所（「ギフロ」）ニ於テ研究中テアル

在齊々哈爾日本帝國領事館

ト、建設作業上密接ナル連絡ヲ保持スル爲メ建設現場方面ト哈府
間ニ専用航空路開設ノ計畫カ進行中デア
チ、極東地質調査「トラスト」ハ開發現場ノ徹底的調査ヲ爲スト
共ニ骸炭製造ノ有効率決定ノ爲メ工業試験ヲ續行スルコトニ決
定
リ、「ブレイヤ」炭田ノ堅坑建設ハ重工業省ヨリ「シヤフトスト
ロイ」(國營堅坑建設「トラスト」)ハ委託サレアルヲ以テ該
事務所技師ハ堅坑建設地ノ調査並ニ工業計畫編成ニ参加スヘキ
コトニ決定シテキル
タ、聯邦自動車「トラクター」工業供給部ニ對シテハ「ブルスト
ロイ」ニ對シ取敢ヘス「トラック」一〇、自動車三、「トラ

在齊々哈爾日本帝國領事館

ル連絡ノ任務ヲ有シテキル
右建設準備事業ノ爲メ四月下旬莫斯科ヨリ數十名ノ技師技手及
一、七〇〇名ノ各種熟練工カ「ブレイヤ」方面ニ送ラレルコト
ニ決定シタ
ホ、「ブルストロイ」建設工事ノ爲メ聯邦供給省ヨリ半年間ノ食
糧資金カ支出サレ建設地方面ノ供給省管轄各機關ニ對シテ四月
十五日迄用要食糧ヲ指定地ニ荷卸スルコトヲ命シタ
ハ、四月九日「ブルストロイ」副技師長「ブーヒン」ノ語ル所ニ
依レハ「ブルストロイ」主任技師代理「ホチヨムキン」ハ「ブ
ルストロイ」建設各種問題ニ關シ極東當局ト打合せノ爲メ四月
上旬哈府ヘ向ケ出發セリ

在齊々哈爾日本帝國領事館

クター」一〇、ヲ配給スヘキ旨政府ヨリ指令カ發セラレテキル
 ル、「ブレイヤ」炭田ニ必要ナル材料及施設ハ中央石炭「トレス
 ト」カ支給スルコトナリアルモ石炭「トラスト」カ其ノ資金
 中ヨリ支出シ能ハサルモノニ對シテハ重工業省カ支給スルコト
 ニ決定ス 尙「ブルストロイ」ノ全般の建設計畫ヲ作成スル爲
 メニ蘇聯當局ハ去ル四月礦山技師、技手地質學者建設技師等約
 一二〇名ヲ網羅シタル調査隊ヲ組織シ之ヲ五ヶ班ニ分チ各種專
 門的技術的立場ヨリ徹底的調査ヲ行フ爲メ夫々現地方面へ派遣
 シテキル各班ノ使命ハ略左ノ通りテアル

イ、第一班（三〇―三五名）「ブレイヤ」驛へ
 「ブルストロイ」建設ノ要點タル「ブレイヤ」驛ヲ中心トシ

在齊々哈爾日本帝國領事館

テ現存水陸交通路ノ密接ナル調査及道路ノ建設修築 「ブレ
 ーヤ」驛ニ於ケル永久的技術的據點ノ創設倉庫住宅建設「マ
 ウノフカ」埠頭擴張計畫

ロ、第二班（三〇―三五名）「チエグンダ」
 「ブルストロイ」建設ノ第二ノ據點タル「チエグンダ」ニ派
 遣サルルモノニシテ臨時埠頭及倉庫ノ開設、將來埠頭ノ擴張
 食糧根據地創設ノ研究

ハ、第三班（二〇―二五名）「ワルガリ」區へ
 「ブレイヤ」炭田中最モ調査ノ行届ケル「ワルカリ」區ニ於
 テ極東地質調査「トラスト」ノ研究調査ノ確認試掘坑ノ檢閲
 測量將來建設地區ノ選定

在齊々哈爾日本帝國領事館

ニ、第四班（二〇―二五名）「ブレイヤ」ヨリ「セレンジャ」
 「ブレイヤ」炭田ノ伸張セル「セレンジャ」方面ノ炭層調査
 其ノ他ハ第三班ノ使命ト同様
 ホ、第五班（二〇名）「ウマルチン」區ハ
 極東地質調査ノ開發可否ノ研究
 尙右ノ調査團ニハ「ブルストロイ」建設ノ所謂指導的人物タ
 ル「ブルストロイ」建設長「ユーノフ」技師ヲ初メ「シヤフ
 トストロイ」ノ設計技師其ノ他技術家及黨員カ多數本調査ニ
 参加スルコトハ注目ニ値スルモノテアル
 4、「ブルストロイ」將來

在齊々哈爾日本帝國領事館

「破壊ハ易ク建設ハ難シ」トハ今古ヲ通シテ論ルコトナキ眞理
 テアル「ブルストロイ」ノ極東開發ニ齎ス意義ハ政治的ニ經濟
 的ニ軍事的ニ頗ル大ニシテ目下蘇聯當局カ數十萬ノ強制労働者
 ヲ使役シテ建設ヲ強行シツツアル「バム」（貝加爾「アムール
 」鐵道「バム」ニ關シテハ後段参照）ノ建設ト共ニ極東地方ノ
 全貌ヲ全ク一變スルモノテアルカ之カ建設開發ニハ其ノ前途ニ
 幾多ノ難關カ横タハツテ居リ容易ニ樂觀ヲ許ササルモノカアル
 開發ノ難關ト思ハル諸點ハ左ノ通りテアル
 イ、「ブレイヤ」炭田ノ位置極メテ僻遠ナルコト
 「ブレイヤ」炭田地域ノ最南端ニ位スル開發ノ一據點「チエ
 グンダ」ヨリ烏鐵本線迄ノ道程ハ三百軒ニシテ該炭山カ斯ク

在齊々哈爾日本帝國領事館

ノ如キ僻地ニ偏在シ而モ人種稀薄交通不便ノ事實ハ開發上根本的ナ障礙ト見做スヘキテアラウ
ロ、氣候惡シキコト

「ブレイヤ」炭田ノ發見者「スコロホート」技師ノ發表セル所ニ據レハ本地方一帯ハ極メテ大陸的氣候ノ特徵顯著ニシテ夏期ハ耐エ難キ酷暑襲ヒ冬期ハ風ナキモ寒氣峻烈ニシテ零下五〇度ヲ示スコト稀ナラス又「ブレイヤ」河地域一帯ニハ平原ナク低地ハ悉ク「ツンドラ」地帯ノ沼地ヲ形成シ夏期炎暑ノ候ト雖モ表面ノミ解氷シ地下數尺ハ永久的凍土ナリト云フ斯ル地方ニ於ケル文明人ノ定住ト活動ハ極メテ困難ヲ伴フモノテアル

在齊々哈爾日本帝國領事館

ハ、交通ノ不便ナルコト

烏鐵沿線ト「チエグンダ」間ハ殆ント道路ラシキ道路ナク僅カニ解氷期間中「ブレイヤ」河ノ水運ニ依ル以外交通不能テアル

本水路モ「ブレイヤ」―「チエグンダ」間ヲ夏期滿水期ニ最大五〇噸級ノ汽船カ通航スルニ止マリ減水期ハ通航極メテ困難テアル「ブレイヤ」河ハ水流速ク急灘多ク帝政時代ノ水路調査書ニ依レハ「ブレイヤ」―「チエグンダ」―「ウーレスト」―「ニマン」間ハ汽船ノ航行不能ニシテ僅カニ小舟ヲ通シ得ルモ奔流シテ通航困難嘗テ「ブレイヤ」調査隊ノ小舟十八隻ノ内十一隻迄顛覆セル事實アリ將來「ブレイヤ」炭田開發ノ先

在齊々哈爾日本帝國領事館

決問題ハ水路ノ調査、自動車道路鐵道ノ建設ナルカスノ如キ
 交通的條件ハ開發、^初最大難關テアラウ
 ニ、人煙極メテ稀薄ナルコト
 「ブレイヤ」炭田地帯ハ東南小興安嶺ニ限ラレ西北ハ「ウラ
 シ」山脈ニ依リテ三萬ヲ圍繞サレタル殆ント前人未路ノ盆地
 地帯ニシテ本地方ニ於テハ「チエグンダ」「ウマルタ」ノ二
 部落ヲ除ケハ僅カニ「ウスト」「ニマシ」ノ一部落アルノミ
 「ウスト」―「ニマシ」ハ人口一〇〇ヲ有スル「ツングス」
 人ノ一部落ニ過キススル無人境ニ於ケル建設カ如何ナル進展
 ヲ示スカハ現時極東地方諸都市ニ於ケル建設狀況ト比較對
 照スル時思ヒ半ニ過キルモノカアルテアラウ

在齊々哈爾日本帝國領事館

斯クノ如ク「ブレイヤ」炭田開發ニ方リテハ主トシテ地理的ニ
 幾多ノ困難ヲ伴フモノテアルカ又一面ヨリ觀察スレハ現下國ヲ
 舉ケテ「ブレイヤ」開發ニ邁進シツツアル「ホリセビキ」ノ根
 強サハ幾多ノ難關ヲ征服シテ戰勝的效果ヲ收メシ前例ハ世人ノ
 能ク知ル所テアリ又現在建設中ノ「バム」幹線ハ烏蘇里線ヨリ
 分岐シテ「クスト」「ニアン」附近ニ於テ「ブレイヤ」炭田ヲ
 横斷スルヲ以テ「バム」幹線ノ敷設工事ノ促進上中間ノ一據點
 トシテ又唯一ノ石炭供給地トシテ本炭田ノ開發カ急速ナル「テ
 ンボ」ヲ以テ實現サレ得ル可能性カ想像サレル
 一方小興安嶺鐵礦地帯ノ開發ハ「ブレイヤ」炭田開發ニ比スレ
 ハ比較的容易ナルヲ以テ「ブレイヤ」炭田ノ探炭開始期ヲ揆機

在齊々哈爾日本帝國領事館

トシテ兩地ノ建設事業ハ相併進シ極東ニ於テ國際的武力紛争ノ
惹起セサル限リ蘇聯邦ノ第二次五ヶ年計畫カ格別ナル破綻ヲ來
ササル限リ數年後ニハ黑龍省ノ本地方ニ於テ第二ノ「ウラルク
ズバス」地方トシテ「ブルストレイ」ヲ中心トスル極東ノ綜合
工業ノ盛觀カ吾人ノ眼前ニ展開セヌトモ限ラヌテアラウ

(附 記)

由來蘇聯極東地方黑龍州一帶ハ豐富ナル資源ヲ包藏シテ居ルノ
テ有名テアル

特ニ黑龍州ノ富源ハ既ニ發表セラレタルモノノミニテモ金、銀
石炭、鐵、銅、水銀、白金、アンチモニー、石油等其ノ他有用
礦物ノ埋藏量ハ莫大ナル數字ヲ示シテキルカ未知ノ資源モ亦將

在齊々哈爾日本帝國領事館

來ノ調査ニ依リテ世ニ現ハルテアラウ
上述「ブレイヤ」炭田ノ如キモ其ノ石炭ノ存在ハ既ニ十九世紀
末ニ識ラレテキタカ今回ノ大炭層ノ發見ハ近々一昨年以來ノ調
査ノ賜テアル舊帝政時代並ニ蘇聯邦ノ資源調査報告書ハ黑龍江
ノ左岸地區ハ實ニ豐富ナル資源包藏地帯ナルコトヲ證明シテキ
ル
然ルニ翻ツテ黑龍江ノ右岸タル我カ滿洲帝國ノ「アムール」沿
岸諸縣ヲ見ルニ本地方ニ於ケル資源調査ニ關シテハ全然白紙ノ
感アリテ吾人ノ寡聞ニシテ未タ其ノ資源調査報告ヲ聞カナイ
尤モ昨大同二年度ヨリハ採金調査隊來リテ黑河附近ノ金礦調査
ニ從事シアルモ斯クノ如キハ九牛ノ一毛ニ過キナイ既ニ吾人ハ

在齊々哈爾日本帝國領事館

南滿方面ノ豐富ナル資源ヲ見今更ニ黑龍江左岸地區一帯ニ無盡
 藏ノ富源アルコトヲ知ル故ニ黑龍江ノ右岸地區ニモ亦同様ノ富
 源アルコトヲ常識的ニ確信スルモノテアル
 天然ノ資源ハ國境線ヲ畫シテ其ノ偏在ヲ示サナイテアラウ
 其ノ最適例ハ黑龍江ノ右岸支流流域ニ於ケル砂金ノ存在ニ依リ
 テ十分證明セラレテキル
 故ニ吾人ハ我カ滿洲國トシテハ北邊國境ノ治安確立後交通ノ便
 招ケルト同時ニ専門家ヨリ成ル資源調査隊ヲ速カニ黑龍江沿岸
 諸縣ニ派遣シ資源調査ヲ行ヒ以テ地方産業開發ヲ促進スルノ方
 策ヲ採ラレンコトヲ提唱スルモノテアル

三、鐵道建設

在齊々哈爾日本帝國領事館

第一次五ヶ年計畫ニ入りテヨリ蘇聯邦ノ東方ニ於ケル鐵道建設
 ハ寔ニ飛躍的ニシテ驚異スヘキモノカアル
 蘇聯邦ノ西北利及極東方面ニ於ケル鐵道建設ハ左ノ三ツニ分類
 スルコトカ出來ル
 A、後貝加爾及烏蘇里鐵道ノ複線工事
 B、「バム」貝加爾「アムール」幹線ノ建設
 C、哈爾尼港鐵道ノ建設
 右ノ鐵道建設ハ何レモ秘密工事ニ屬シ從來殆ント公表サレザリ
 シ關係上之ヲ詳述スルノ資料ナキ爲メ僅カニ入手セル斷片的情
 報ヲ綜合スルニ止ム
 イ、後貝加爾及烏蘇里鐵道複線工事

在齊々哈爾日本帝國領事館

現在後貝加爾鐵道ノ複線工事ハ「オムスク」ヨリ「カリムスカヤ」迄未完成ノ數ヶ所ノミ殘シ他ハ全線複線カ完成シタ
 右ハ一九三三年度莫斯科發行ノ交通地圖ニ依ルモ該區間ハ明
 カニ複線ニシテ又本年二月「ホチカレウオ」ニ於テ「ウエル
 フネウージンスク」ヨリ來レル赤軍ノ一將校モ右事實ヲ確認
 シテキタ
 「カリムスカヤ」ヨリ以東ノ後貝加爾及烏蘇里線ニハ一昨
 年以來數萬ノ強制労働者ヲ使役シテ複線工事ヲ強行中テアツ
 タカ昨三三年末ニハ「カリムスカヤ」―「ウルシヤ」間ハ
 工事完成セリト云フ情報アリシモ未タ工事中ニシテ本年末迄
 完成スルコト困難ナルヘシ

在齊々哈爾日本帝國領事館

極東地方共產黨委員會議長「ラリベンチエフ」ハ本年一月五日
 日哈府ニ於テ開催サレシ極東地方共產黨大會ノ報告演說中ニ
 (「ウルシヤ」―「ホチカレウオ」間ノ烏鐵複線工事ハ一九
 三四年度ニ於テ完成サルル管テアル)ト述ヘテキル點ヨリ推
 斷シテ右區間ハ本年中ニ工事ヲ實施スルコトハ確實テアル
 尙一九三五年迄ニハ烏鐵ハ完全ニ複線化サレル計畫ナリト云
 フ
 後貝加爾鐵道ハ「ウルシヤ」附近迄ハ「キプロノイ」山脈中
 ヲ走り山脈ヲ廻リ數多ノ橋梁ヲ架シ蜿蜒トシテ迂廻セル箇所
 多ク且ツ地盤概ネ岩石多キヲ以テ之カ複線工事ニハ多大ノ勞
 カト時日ヲ要シタ然レ共「ウルシヤ」以東浦鹽迄ハ山地帯ハ

在齊々哈爾日本帝國領事館

緩傾斜ノ小興安嶺ヲ除ケハ他ハ悉ク平地ナルヲ以テ主要各地ヨリ一齊ニ工事ヲ開始セハ復線工事ハ以外ニ迅速ナル達成ヲ見ルモノト判断サレル蘇聯極東地方ノ大動脈タル烏蘇里鐵道ノ複線工事カ極東ノ政治、經濟、軍事上ニ齎ス重大意義ハ今更贅言ヲ要シナイ所テアル

ロ、「バム」(BAM貝加爾「アムール」鐵道)ノ建設

「バム」トハ「バイカル」「ブムールスカヤ」「マギストラ」ノ略稱ニシテ貝加爾方面即チ東、西比利ト黒龍江トヲ連絡スル極東地方横斷鐵道ヲ謂フモノテアル

「バム」ノ建設計畫ハ内容ニ於テ二ツニ分レテキルモノノ如クテアル

在齊々哈爾日本帝國領事館

第一ノ幹線ハ「スコホノチノ」附近ノ新設驛「タムタミキハ」(一説ニハ烏鐵線「ナキグダ」驛ヨリ分岐スルト云フ説アルモ確實ナラス)驛ヨリ分岐シ最初ノ「コース」ハ殆ント烏鐵本線ト併走シ「ゼーヤ」「ゼレムジャ」河ヲ渡リ「ブレイヤ」炭田ノ「ウスト」|「ニマン」附近ヲ經テ黒龍江岸ノ「コムソモルスク」(哈府下流三百軒、新興都市ニシテ人口約二萬目下大造船所ヲ建設中)ニ於テ黒龍江ヲ横リ韞海峽ノ「ザウエート」灣(舊稱「インペラトルスカヤ」灣)ニ達スルモノテアル

第二ノ「バム」ハ東部西比利線「タイセツト」ヨリ分岐シ其ノ東北方ノ鐵礦產地帯「ブラットスク」ヲ據テ貝加爾湖ノ北

在齊々哈爾日本帝國領事館

方ヲ東北ニ長驅シテ「ボダイバ」高地ヲ過キ遠ク黒龍江口ノ
 尼港ニ達スルモノナリト云フ
 今便宜上假ニ前者ヲ大「バム」後者ヲ小「バム」ト呼フコト
 トスル
 大「バム」小「バム」共ニ現在旺ニ建設中ニシテ大「バム」
 方面ヘハ昨年「ゲ、ベ、ウ」ノ主催ヲ以テ開通セル白海「バ
 ルチック」海ヲ結フ大運河開鑿ニ使用セル強制労働者數萬ヲ
 送り之カ建設ニ使用シツツアリト云フ
 尙小「バム」ハ昨冬建設現場ノ強制労働ヨリ逃亡シ來レル露
 人ノ談ニ依レハ該鐵道ハ一昨年ヨリ數萬ノ強制労働者ヲ使役
 シ建設ヲ開始シ既ニ昨年十月迄ニハ約二百軒ノ建設ヲ完成シ

在齊々哈爾日本帝國領事館

居タリト云ヘハ^{現在}相當距離ニ達シアルモノト判断サル
 大「バム」小「バム」ハ管ニ東西西比利及極東地方産業開發
 ノ重大使命ヲ有スルノミナラス西比利、極東地方ニ於テ重要
 ナル軍略的意義ヲ保有スルモノナルコトハ云フヲ俟タナイ
 ハ、哈爾—尼港鐵道
 本鐵道敷設計畫ハ數年前ヨリ蘇聯當局ニ於テ企圖サレアリシ
 モノニシテ最近ニ於テ之カ實現ヲ期シアルコトハ昨年二月哈
 爾ニ於テ該地外交代表「ローゼ」氏ガ親シク吉津副領事ニ言
 明セルニ依ツテモ明白テアル
 本鐵道ハ管ニ極東地方ノ中心哈爾ト北邊ノ主要地尼港ヲ連絡
 シ併セテ「アムール」沿岸ノ開發ニ資スルノミナラス冬季結

在齊々哈爾日本帝國領事館

氷ニ依リ交通ノ杜絶スル黒龍江及日本海ノ弱點ヲ補足シテ冬季ニ於テモ北樺太原油哈府ノ「ネフチストロイ」ニ供給シ得ル重大使命ヲ有スルモノテアル本鐵道ノ建設ハ既述哈府「ネフチストロイ」ノ建設ニ必須缺ク可カラサル動脈ヲ爲スモノナルヲ以テ早晚建設實現セラルヘキモノナルモ現在未タ其ノ工事ニ着手シテキナイ

以上ヲ以テ蘇聯極東地方ニ於ケル建設工作ノ「アフトライン」ヲ展望シ得タノテアル

四結語

吾人ハ今二十世紀ノ中葉ニ於テ東洋ノ一角ニ前古未層有ノ最モ雄大ニシテ興味アル競争圖繪ノ展開ニ接シテキルノテアル

在齊々哈爾日本帝國領事館

夫レハ言フ迄モナク千古ノ謎ヲ秘メテ流ルル黒龍江ノ兩岸ニ相對立スル滿洲帝國ト蘇聯極東ノ經濟建設競争ノ姿カ之レテアル黒龍江ニ依ツテ一線ヲ畫シ其ノ左岸ニ於ケル社會主義陣營ハ極東地方ノ豐富ナル天然ノ彈壓資源ヲ擁シ彈壓ニ依ル民衆ノ搾取ト歐州技師ノ「エキスパート」ヲ集メ以テ社會主義的經濟建設ニ血ミトロノ鬭争ヲ展開シテキル黒龍江岸ニ於ケル資本主義陣營ハ之亦無盡ノ藏ノ富源ヲ包藏シ三千萬民衆ノ熱ト力ト盟邦日本ノ技術ノ粹ヲ聘シテ以テ王道主義的經濟建設ニ一大飛躍ヲ開始シテ居ルノテアル

滿洲帝國ト蘇聯極東ハ思想的ニハ全ク相對立シテキル即チ前者ハ王道主義ヲ指導原理トスル資本主義的國家ニシテ門戸開放、機會均等ヲ標榜スルニ對シ後者ハ共產主義ヲ指導原理トスル社會主義的國家ニシテ鎖國主義世界革命ヲ目標トスルニ拘ラス相互ノ位置、地勢、資源等大部ノ「コンデジョン」ハ殆ント兩者

在齊々哈爾日本帝國領事館

平等ニシテ時ヲ同シウシテ經濟建設ノ「スタート」ヲ切ツタノ
 テアル而モ兩者邁進ノ目標ハ王道樂土ト云ヒ階級ナキ共產主義
 社會ト云フモ何レモ人類樂土ノ建設ニ存スルモノテアル
 右ノ現象ハ一面ヨリ見ル時ハ社會主義陣營ノ國家的經濟建設競
 争テアハリ他面ヨリ觀ルトキハ白色人種ト黄色人種ノ人類ノ樂
 國建設競争テアリ天ハ相對立スル二個ノ陣營ニ對シ時ヲ同シウ
 シテ人生ノ樂土建設ノ天命ヲ課シ其ノ能力ノ試練ヲ爲サントス
 ルモノナリト云ヒ得ナイノテアラウカ
 我カ滿洲國ノ王道樂土建設ニ携ル日滿兩國民ハ選ハレタル人類
 トシテ此ノ天來ノ責務ト光榮ヲ感シ王道樂土ノ實現ニ不斷ノ努
 カヲ致スヘキテハナカラウカ

完

在齊々哈爾日本帝國領事館

文書課
圖書係
調査部

E 4.1.1-1

歐亞局

公普通第一八號

昭和十年一月十五日

第一號

昭和拾年貳月拾貳日接受

有附屬物(別便)

在「ソヴィエト」

日本大



外務省歐亞局 第一課 御中

圖書係ニ受入

圖書係受入
E 56
247
昭和 10.2.26

「蘇聯邦第二五年計畫」送附ノ件

今般「ゴスプラン」ヨリ發行セラレタル「蘇聯邦國民經濟開發第二五年計畫」一部御參考迄別便ヲ以テ送附ス御查收相成度

在ソヴィエト聯邦日本大使館

E-1623



人々、自覚ニシテ資本主義階級、疎及ヒ資本主義ノ特殊

共産主義階級の闘争ニ於テ、ソレヲリテトハ、社会主義的生産手段、勝利ヲ確認シテ中心。昨午、於テハ、国民收入、九六%ハ、社会主義的経済形態ニ對シテ、本年、於テハ、個人経済形態、主トシテ農業ニ於ケル個人的経済形態ニ對シテハ、二五%増加ガサレテ中心。

一九三三年ニ於ケル工業、總生産増加ハ、八六億留、一、九三四年ニ於ケル七九億留、増加ニ對シテ、一六%トナリ中心。工業、總生産ハ、六三億留トナリ中心。斯ク、如クソレト聯那ハ、恐慌前、好況年ニ於ケル、運米利加合、外子ヲ除キタル世界、トシテ、資本主義、早ヨリモ生産が多ク、電力、石炭、鉄、銀、鉄、車輛、トラクタ、コンバイン、機械、等、如キ部門ニ於テハ、生産、天、一、九三五年ニ對シテ、五年計畫ニシテ豫想セラルル任務ヲ超過シテ中心。一九三五年ニ於ケル工業ニ對スル資本施設ハ、昨年、於ケル水準ニ依リ、一、五億留、アルカ、本年、於ケル實際的資本施設ハ、一、八億留、昨午、於ケルヨリ、一、八七%カケ多ク、又一、九三四年、資本施設額ヨリ、三%カケ多クナルテ、アツク。

本年、於ケル消費手段ノ生産スル部門、生産増加テンホハ、生産手段ノ生産スル部門ト比較セラルル(一、五八乃至一、六一%)。本年、於ケル、亜麻織物生産カ、二%カケ、毛織物生産カ、一、六%カケ、編織物生産カ、一、二%カケ増大セラルル。焼ハ、ン、及、鐵、鑄、マカ、ロ、ニ、砂糖、植物油、等、生産カ、著シク増加スル。

一九三五年、計畫遂行ハ、新企業、時宜的開始及ヒ創設セラルル生産力、把握ヲ豫定スルノテ、ハ、ナ、工業、計畫力ヲ達成スルノミナラズ、實の証明、世條件的遂行、及、労働生産力、向上(一、一%カケ)、單價ノ低下(一、七%カケ)及ヒ生産ノ向上ヲ達成セズ、ハ、ナ、ラ、ズ。

一九三三年、計畫ハ、農業物、増産ヲ一七億留、マテ、昨午、於ケル、一、六、三%マテ、増産ヲ豫定シテ中心。本年、於ケル、ヨ、曲、農業カ、如何ナル力強サヲ以テ、前進スルカヲ了、解、セン、カ、タ、メ、ニ、ハ、過、去、一、年、を、増、産、テン、ホ、カ、テ、五%ヲ超過シ、ナ、カ、ワ、ク、ニ、ト、ヲ、想、起、ス、レ、ハ、單、々、本、年、於、テ、於、ケル、農、産、物、増、産、テン、ホ、ハ、工、業、生、産、物、増、加、テン、ホ、ヲ、凌、駕、ス、ル。加、工、原、料、農、産、物(二、一八%)、高、産(一、七%)及ヒ粒穀農産物(八、三%)カ、増、産、ノ、最、モ、高、率、十、七%ヲ指、示、シ、テ、中心。

農業ニ對スル資本施設ノ大部分(一、八六〇。留)ハ、動力及ヒ農業機械ニ投じラルル。農業機械、技術的改造ニ向ケラルル。本年、於ケル、テ、ハ、

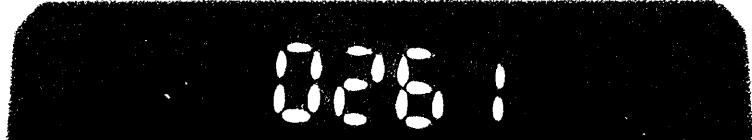
農共年ハ五二〇万馬力トラクター廠本年分ニ対シテ五年計出産ニシテ
豫定セシタリヨリモ四〇%外多クシテ本年分末ニシテ概概トラクター
ステーションノ數ハ四一モトニ達スルヲ多クシテ廠多ク實現セテアラウ。
一九三五午ニシテ農共年ノ中心任務ハ高頭數ノ増加及ビ收穫
ノ向上ニ對スル闘争ナラン。粒穀作物ノ收穫ハ一ヘクター當リ九四ツ
セントスル、棉ハ九三ツセントスル、麻ハ三三ツセントスル、甘蔗ハ一五三ツ
トスルマデニセバナラヌ。播種面積ハ概シテ安定シテ中心。
一九三五午ニシテ八年分末マデハ仔馬一〇〇万頭以上、仔牛
一一〇〇頭、仔豚一四八〇万頭及ビ仔羊一六六〇〇万頭ヲ繁殖飼育
セバナラヌ。二ノ結果、一九三五午ニシテハ馬ノ頭數ヲ九三%カケ、
豚ノ頭數ヲ三六%カケ、羊ノ頭數ヲ一九八%カケ増加セバナラヌ。
工業及ビ農業ノ生産物増加ノ伴ヒ運輸ニ對スル要求モ亦増
加スル。一九三五午ニシテハ鉄道運輸ハ昨年分ニシテ三三%カ
河川ニシテ三三%、海上ニシテ二一%カケ多ク、貨物ノ運輸セバ
ナラヌ。貨物流通計畫ニ連行シテ當リテ平均一晝夜ノ積載ハ三三〇〇
車輛マデニ、平均高車速ハ一五五軒マデニ達セバナラヌ。鉄道
運輸ニ對スル資本施設ハ三九億留アリ、一九三五午ニシテ全國民

經濟ニ對スル資本施設額ハ概シテ安定シテ中心ニモ拘ラズ昨年分ヨリモ
二五%カケ多クシテ。
日常生活必需品ノ生産増加、高品質作物ノ增收ハ消費高水準
計畫ヲハ〇〇億留マデ昨年分ニシテ三ノ一カケ多ク増加スル可
能性ヲカヘテ中心。更ニ高品質ノ規正的發送額ハ總額五五億留
ナラン。一九三五午ニシテハ小賣値段ノ統一及ビ小賣値段ノ三〇億留カ
ケノ低下ヲ指サセラルン。
國民經濟ノ發達ト共ニ勤勞者ノ物質的・生活的状態ハ改善セラ
レリ。一九三五午ノ国民收入ハ六四五億留マデニ昨年分ニシテ三ノ一
モ九〇億留カケ多ク増加スル。一〇〇万餘ノ勞働者及ビ勤勞者ヲ要
求セバシ、賃金ハ一億留カケ増加セラレ、年賃金ノ平均水準ハ一三
四%カケ増進セラレリ。コレト同時ニ勤勞者ニ對スル文化生活的施設債
金ハ増加スル。コレハ不負ノ富強性ヲ増進スル。コレハ不負ノ国民
一人當リノ粒穀作物ノ總收穫ハ一九三五午ニシテ既ニ一九二九年ノ富
強經營ニシテ三ノ一〇%カケ多クカワツタ。
一九三五午ニシテハ文化的建設ハ若シク發展シ、教育費ハ増額セ
ラレ、新シキ俱樂部・演劇・キネマ、建設セラレ、一切ノ保健制カ

3

が大発展ヲナシ、療養院ハシモツク、托児所、安老院、家、サナトリウム
等、数が増加ス。

重工業ノ巨大勝利ヲ基礎トシテ五年計畫亦三年分計畫
ハ同一ナルテンホシテ工業系ト農林系ト生産手段ノ生産力増進費手段
ノ生産力増進ノ發展ノ可能性ヲ保証スルヲ偉大ナル透視ヲ打開ス。
一九三五年ノ計畫ノ実行ハ吾々自身ニヨリテ支持ト意思ニカノ
正鵠ナル分配、組織的、技術的指導ヲ性成ニ依存ス。



公普通第ニ三三號

昭和十年七月二十三日

在「ソヴィエト」聯邦

特命全權大使 大田 爲



外務大臣 廣田 弘毅 殿

第二次五年計畫内國債第三年分募集成績及新富籤

公債發行ニ關スル件

五月二十一日附公普通第一七五號拙信ニ關シ五月五日發表セラレタル第二次五年計畫第三年分三十五億留内國公債應募成績ニ就テハ五月十四日既ニ全額ヲ超過セル趣既報ノ通りナル處七月廿一日各紙ノ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

發表セル處ニ據レハ同月一日現在ニ於テ

應募總額 四、一五二、三八九、〇〇〇留

客年分同公債實成績ヲ超過セ 七六二、九二四、〇〇〇留

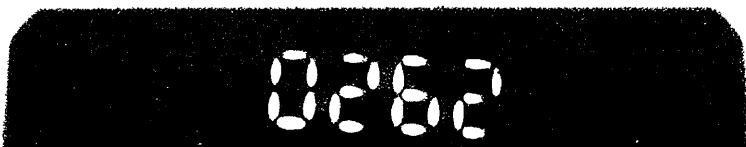
ナル趣ニシテ本年度分公債ノ應募豫定額ヲ超過セルコト六五二、三八九、〇〇〇留ナリ因ニ右ニ依リ客年度第二次五年計畫公債（募集豫定額三十五億留）ノ實成績カ三、三八九、四六五、〇〇〇留ニテ豫定ニ達セサリシコト明カトナレリ
右本年分公債ノ民衆ニ對スル負擔ノ程度ニ就テハ七月二十二日「ラボーチヤヤ、モスクワ」紙ノ報道ニ據レハ莫斯科市及同州引受額左ノ通りナリ

莫斯科市 三六〇、九五六、〇〇〇留（管金基金ノ一二三%）

莫斯科州 一六、〇〇〇、〇〇〇留（同 一三〇%）

勤務員 一六、〇〇〇、〇〇〇留（同 一三〇%）

在ソヴィエト聯邦日本大使館



同農民 三三、〇〇〇、〇〇〇留
 合計 五五四、九五六、〇〇〇留

而シテ賃金基金ハ通常一ヶ月毎ニ定メラレ且該基金カ種々ノ支途ニ對シ控除セララル事實ニ顧ミ右ノ比率ハ今年分公債引受高カ給料一ヶ月分ヨリモ相當多額ニ上ルコトヲ示スモノナルニヨリ本公債ハ民衆ニ對シ多大ノ負擔ナルヘント察セラル因ニ發行ノ當初ニ於テ給料三週間分ヲ提供スルヤウ宣傳セラレタル次第ハ冒頭往信ニテ報告ノ通りナリ

尙右第二次五年計畫トハ全然別個ニ今回左ノ通り新ニ一九三五年當籤公債賣出中ナル旨七月十七日「^{ラウダ}」紙ニ發表セラレタリ右ハ總額モ多カラス又富籤附ナル爲從來ノ例ニヨレハ相當良好ナルモノト認メラル

一募集總額 一億留
 二額面高 百留（但五千万留分タケハ額面五十留ノモノヲ

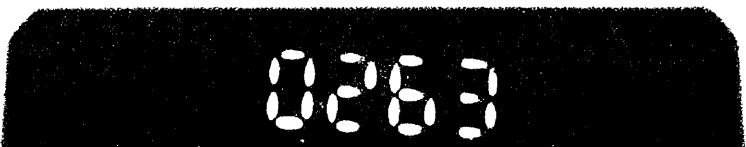
在ソヴィエト聯邦日本大使館

發行ス）
 十年
 抽籤ニヨル
 富籤ハ二万五千留、一万留、五千留、千留、五百留、二百留、ノ六種アリ各公債額面高タル百留ヲ含ム

四償還方法

右報告ス

在ソヴィエト聯邦日本大使館



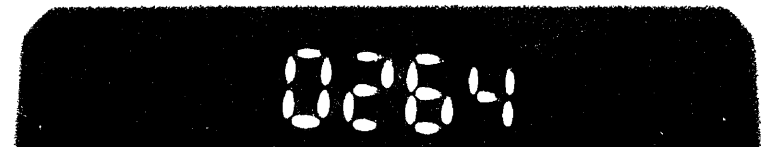
要寫
部

E-4.1.0.1-1

公 信 案	(昭和十年七月二十三日附在 天又ウ箱來電) 電機 普機 第三三三三號 寫 電 郵 局 書 寫	本備送付先 付御参考ノ爲右茲ニ送付ス 本件ニ關シ今般在ノワイ系所 大田大使ヨリ別紙寫ノ通報 告アリタルニ	件名 第二次五年計劃内名債 亦三年分募集 成績及新留藏公債 為同一ニ件	受人信 大藏省 青木理財局長	發信人 東郷局長	記録 名 件 録 名 件 録 名 件 録	主 管 主 任 第 一 課	歐 一 普 通 第 五 四 號	昭 和 十 年 八 月 拾 六 日	日 附 附 屬	昭 和 十 年 八 月 拾 七 日 發 送	文 書 課 發 送	文 書 課 長
							淨書 (最上)	正校 (原稿)	淨書 (最上)	別紙			

16 138

E-1623



ER.10.1-1

歐亞局

公機密第五三九號

昭和十一年五月七日

第一課

在間島
總領事 川村

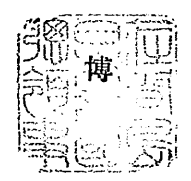
外務大臣 有田 八郎 殿

昭和十一年五月七日機密第六七一號寫送付

在滿大使 宛

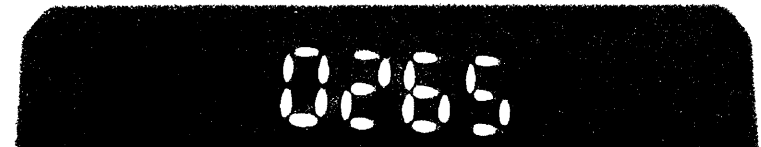
一、蘇聯ノ一九三六年度生産企劃ニ關スル件

名付
各子丸
五月十日
附屬添付
五月十日
日接受



在間島日本總領事館

E-1623





機密第六七一號

昭和十一年五月七日

別紙添付

在間島

總領事 川村 博

在滿洲國

特命全權大使 植田謙吉 殿

蘇聯ノ一九三六年度生産企劃ニ關スル件

琿春分館署長報告

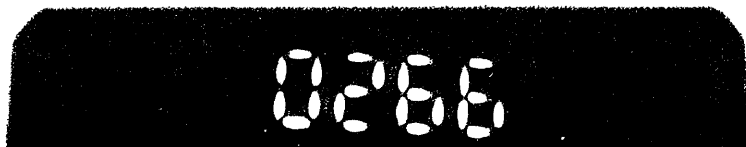
本件ニ關シ在滿盜謀者ヨリ全同盟「ホルシヴィク」共產黨中央執行委員會ニ於テ「一九三六年度ニ於ケル國內人民ニ對スル經理企劃」ト題シ全國各機關ニ發シタル指令

一部入手別紙ノ通譯文シタルニ付報告ス

本信寫送付先

外務大臣 哈爾濱 齊々哈爾濱 滿洲里 綏芬河谷公館長 延吉憲兵隊長

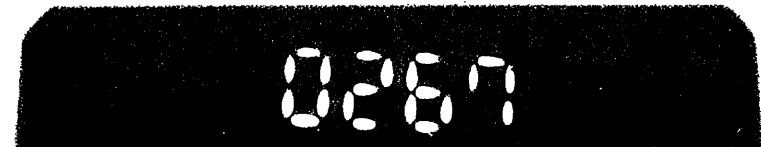
E-1623



目次

- 一、一九三六年度「C C C P」ノ生産企劃
 - 二、工業ニ對スル企劃
 - 三、農村經理ニ對スル企劃
 - 四、交通運輸ニ對スル企劃
 - 五、市共同住宅ニ對スル企劃
 - 六、商品ノ流通及需用品生産ニ對スル企劃
 - 七、勞力人材及文化ニ對スル企劃
- 註、本文中ノ單位ハ左ニ依リ換算ス

- 「ミリアート」 ||||| 「ミリオソ」
- 「ミリオソ」 ||||| 「百萬」
- 「ケクタ」 ||||| 「四〇〇坪」
- 「チエント」 ||||| 「五〇斤」



一九三六年度(第二次五年計畫第四年目)

「CCCP」ノ生産企劃

一九三六年度國內生産企劃ニ對スル「CCCP」人民委員「ソ
ヴエート」會長モロゾフ並ニ「CCCP」國家企劃部長ノスラ
ウリノ報告ニ依リ「CCCP」中央執行委員會第二次會議
ニ於テ左ノ通り決定セリ

A「CCCP」政府ノ内外政策並ニ實施事業ノ全体ヲ承
認ス

B「CCCP」人民委員「ソヴエート」ヨリ提出シタル「一九三六
年度「CCCP」國內生産企劃」ヲ承認ス

「CCCP」中央執行委員會長 ム、カリーニン

同 秘書 イ、アクワカ

一九三五年度ハ「CCCP」ニ於ケル社會主義ヲ一層鞏化シ發
達セシムルコトニ成功シタ

一九三五年度ニ對スル二次五年計畫ノ基本的課業ヲヨリ以
上實行シタル為人民ノ收入及工業生産ノ增長ヲ見農村經理
ト運輸業ヲ之向上ノ域ニ達シ國民ノ生産技術ニ大イニ改
造セラレタリ

労働階級ト「コルホース」農民ノ物質的方面ニ層向上セラレ
資本主義的殘黨ト一般的階級ノ清算ヲ目的トスル第二次
五年計畫ノ基本的政治課業カ高度ニ實現セララルヘシ
二次五年計畫ノ三年目ノ重要ナル成績ハ労働階級ニ於ケ
ルスタハノブ運動ニシテ是レハ我國家ニ於ケル社會主義ノ偉
大ナル功績トシテ各種産業ニ於テ労働者ノ勞力カ生産能
率ノ高度ノ向上トシテ表現サレ又該運動ハ産業發展ト商

石炭	一九五〇萬噸
原油	三〇〇萬噸
鑄鐵	一四五〇〇
鋼鐵	一六〇〇〇
銑鐵	一、二二〇〇
此内良質銑鐵	二〇〇〇
金屬再製品	二二〇〇〇〇〇留
汽機車	一、九〇〇台
貨物列車	九〇、〇〇〇台
トラクター (一五馬力)	一五四、三〇〇台
播種機	六一、〇〇〇台
自動車	一六一、五〇〇台
金屬製品 (廣く使用ナル物)	一五〇、〇〇〇〇〇留
自轉車	八〇、〇〇〇台
蓄音機	九五五、〇〇〇台
同レコード	五八〇〇〇、〇〇〇枚
時計	五〇〇、〇〇〇個
自動自轉車	一〇〇、〇〇〇台
寫真機	二三六、〇〇〇台
ラヂオ受信機	五〇〇、〇〇〇台
重工業化學品	四二六二「ミリオン」留
輕工業品	一二五九八「ミリオン」留
此内棉花紡織物	三二一五「ミリオン」米突
麻織物	三二六「ミリオン」米突
履物	一、〇〇三、六三一、〇〇〇足
食料品産業	一、一八六〇「ミリオン」留

肉類	六五〇、〇〇〇噸
魚類	一六一四、〇〇〇噸
砂糖	二五〇、〇〇〇噸
森林業	三、七四、〇〇〇噸
紙類	七、八七〇、〇〇〇噸

二、生産技術ヲ一層促進セシメ生産能力ヲ圓滿ニ發揮スヘク最善ノ注意ヲ要ス

重工業ニ於テハ技術上複雑ナル機関即チ機械製造業金屬業、化學品生産、紙類生産、輕工業用品生産「コンパイン」並ニ工藝作物栽培又ハ農具ノ生産、道路敷設用機械ノ建造其ノ他貴金屬生産、銅「ニッケル」^ニ「スズ」^ニ「鉛」^ニノ生産原油採掘ト再製特ニ揮發油ト「リクロイン」^ニ（發動機ニ注ス）金屬ヲ清潔ニ保持スル油類（生産、硫黄、平鐵、鐵管）^ニセ

ント「煉瓦生産、自轉車、自動自轉車、蓄音機」レ「コリド」ラ
カオレ受信機、時計、寫真機、住宅—市經理的施設品生産
ニ對シ特ニ注意ヲ要スヘシ

輕工業ニ於テハ先麻生産、人造絹糸生産、皮代用品生産、磁器、硝子製品生産ニ注意シ、食料品産業ニ於テハ魚類、肉類、再製砂糖生産、純酒精、大量的生産等ニ注意ヲ要ス

森林業ニ於テハ夏季ニ於ケル木材運搬ノ機械化ト紙類生産及家具生産ニ特別ナル注意ヲ拂フコト

三、工業ニ於テハ一九三六年度勞力ノ生産能率ノ長成ハ一九三五年度ノ中等生産能率ニ比シニ〇%ト定メ平均賃金ハ一〇、二%ニ定メ此ノ内譯次ノ如シ

勞力生産能率ノ増加	勞働者ノ賃金ノ増加
重工業人民委員部	二三%
	一二%

輕工業	二一%	一四%
森林業	一九%	九%
工場製造所生産		
木材再製品	二〇%	九%
食料品	一七%	八%
建築業	三〇%	一〇・三%

四、現下ノ技術的方面ノ定量ヲ新シキ定量ニ改善シ此ノ技術的定量ニ依ツテ作業率又相當増加スルモノト認ム

「CCCP」中央執行委員會及人民委員「ソウエート」ハ「CCP」内各經理人民委員部ニ命シテ一九三六年度ノ技術的定量ト企業所ノ生産的力量ヲ向上スルニ當リ其ノ期間ト順序ヲ決定スヘシ

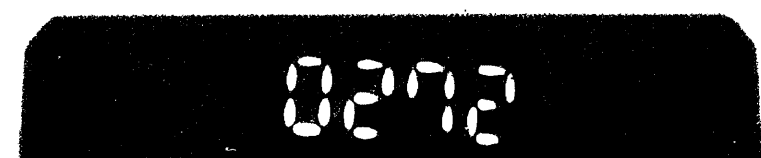
五、一九三六年度工業生産物ノ原價ヲ一九三五年度ノ平均一

年ノ水準ニ比シ六・二%ヲ低下セシムヘク定ム左ノ如シ

重工業人民委員部	八%
輕工業	五%
森林業	
(工場製造所生産)	四四%
木材再製業	六五%
食料品	六%

六、一九三六年度ニ於ケル建築費ハ同年ノ豫算案ヨリ一%ヲ減シ此ノ内ヨリ直接建築業ニ對スルモノハ一四・五%ヲ節約スヘキコト

七、人民行政(直譯ハ經理)ノ重要ナル建築事業ニ對スル總額ハ三二・三六五「ミリオン」留ニ定メ此ノ支出額ハ一九三五年ノ豫算表ニ比シ一%ノ費用ヲ節約シニハ七九七「ミリオン」



シ四〇〇〇留ヲ支拂フコト

八、重工業人民委員部ニ於ケル重要ナル建築事業費總額ハ
八五〇〇〇ミリオソシ留ニ定メ此ノ支出額ヲ五五六五〇ミ
リ
オンレ留ニ定ムルコト

大事業トシテ決定セラレタル重工業人民委員部ノ重要
建築事業計畫ヲ進行シ左ノ如キ重要建築部門ニ於
テ建築ヲ最モ迅速ニシ新企業所ヲ速ニ始業セシムルコ
トヲ同部ニ負擔セシム

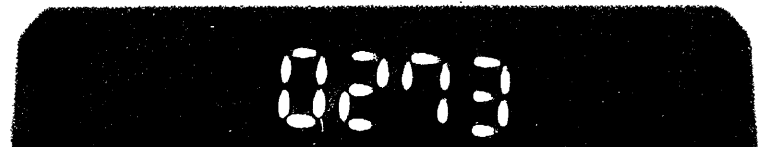
人銅生産企業所ノ建築ヲ進展セシメ部分的ニハ一九三七年
ノ第一次ニ「アリバハス」中ノ「ウラスク」^六「アルマビンスク」鋼
鑄造「コンボナート」ヲ始業得ル様一九三六年度ニ豫メ準
備スルコト

「アルマビンスク」^六「コンボナート」建築ニプリテハ鋼鑄造業
カ廢物利用ノ方法ヲトリ原料ヲ生産的ニ使用スル

二、一九三六年度ニ「ウバニツケル」^六「コンボナート」ノ建築ヲ竣工シ
北部及「オルスタニツケルコンボナート」ノ建築ヲ廣ク進展セシ
メルコト

三、原油産業ニ於テハ直接原油採掘業又ハ部分的ニ再製業ニ
於テ建築ノ進展ヲ保障シ十五萬米突ノ穿掘計畫實行
ヲ保障シ（此内アケルバイトサンセル）ニ於テハ一四六〇料
八箇ノ「イレシキク」ニ箇ノ鐵管ト「ウバ」原油再製工場ヲ竣
工スルコト

四、電氣「エネルギー」總管理局ト水力「エネルギー」建築總
管理局ノ區域發電所ニ於テ「七一」料「ワット」ノ新電氣
カヲ利用スヘキニシテ此内ヨリ火力發電所ニ於テ五四
〇料「ワット」水力發電所ニ於テ「七一」料「ワット」重工業



人民委員部ノ生産的發電所ニ於テ三。料「ワット」ヲ利用
セシムヘキコト

5. 一九三六年度内ニ二八八。輛ノ四輪式車輛生産能力ヲ有
スル「ウラル」車輛工場ヲ竣工シ「モスコ」ノ「スターリン」
自動車工場ト「コリキヤ」ノ「モロトブ」自動車建築ヲ進
涉シ一九三七年初ニ至リ「モスコ」自動車工場ノ生産
能力ヲ五萬台「コリキヤ」自動車工場ノ生産能力ヲ百
六十萬台迄ニ定メ一九三六年度政府ニ於テ豫定ミタ
ル新種ノ輕便自動車生産ヲ進涉セシメルコト

九、輕工業人民委員部ニ於ケル重要ナル建築費ハ一三〇〇
「ミリオン」留ニ定メ財政支出ハ一ニ二八「ミリオン」留ニ止
ムルコト輕工業部門ニ於ケル建築ノ進涉ヲ計ルト共ニ
一九三六年度ニ「コスト」ト「ロバ」細麻布生産「コンビナート」
ト「スモレンスク」オ「ルサ」麻「コンビナート」ノ施業ト「クラジ
コバ」「ベスシツ」「ボロクタ」「ワチマ」ニ於ケル新「ラシマ」四ヶ所
ノ麻「コンビナート」建築ノ進涉四ヶ所ノ人造綿絲製造
ノ始業ヲ保障スルコト尚ニヶ所ノ毛物工場トニヶ所ノ
皮類代用品工場建築ニ着手シ一九三六年度ニ一ヶ
所ノ綿花紡績生産企業所ト五ヶ所ノ硝子生産企業
所ヲ改造スルコト

一〇、食料品産業人民委員部ノ重要ナル建築費總額ハ
一三三〇「ミリオン」留ニ定メ財政ハ一〇五七「ミリオン」
留ヲ支出スルコト砂糖生産凍結物生産菓子生産所ノ
新築、漁業ノ技術ヲ一層向上セシメ部令的ニ三ヶ所ノ
新砂糖工場建築ニ着手シ一四ヶ所ノ冷倉庫四ヶ所ノ
凍結品工場九ヶ所ノ菓子製造所建築ニ着手シ三ヶ所

砂糖工場ノ事業ト六ヶ所ノ砂糖工場改築ト八ヶ所ノ
獸肉「エンピナート」六ヶ所ノ菓子製造所ニヶ所ノ製油
工場ニヶ所 脂肪製品企業所ノ始業保障責任ヲ食
料品産業人民委員部ニ負擔セシムルコト

二、地方産業ニ於ケル重要ナル建築費總額ハ九三〇「ミリオ
ン」留ニ定メ財政支出ハ八七二「ミリオ」留ニ定ム

「トリコタス」及履物産業ヲ改造シ印刷施設、醫業施設、
市共同經理施設品製造ニ使用スル建物ヲ改造スルニ
責任ヲ同盟共和國政府ニ負擔セシムルコト

二、農業經理ニ對スル計畫

一、農村經理總產額ハ一九三五年年度ニ比シ一九三六年ニハ
二四%増加セシムルコトヲ承認シ其内農作業ヲ二三%
畜産業ヲ二六、一%ニ為ス事ヲ認ム

二、一九三六年度播種面積ヲ次ノ通り定ム

一、秋播及春播作物ノ總播種面積ハ一三五、二「ミリオ」留ニ
シテ此ノ内各体系ノ「ソフホーズ」ニ於テ一六、二七「ミリオ
ン」内「ソフホーズ」人民委員部「ソフホーズ」ニ於テ八、一六
「ミリオ」留「ソルホーズ」ニ於テ一〇、九四四「ミリオ」留ニ定ム
二、禾穀播種面積ハ一〇、二八五「ミリオ」留ニシテ其内春播系
穀面積ハ六四、五二「ミリオ」留内各体系ノ「ソフホーズ」ニ
於テ八、四四「ミリオ」留「ソフホーズ」人民委員部ノ「ソフ
ホーズ」ニ於テ六、五六「ミリオ」留「ソルホーズ」ニ於テ五三、
三〇、九「ミリオ」留ニ定ム

三、技術的作物播種面積ハ一〇、二四五「ミリオ」留ニシテ其内
棉花播種面積ヲ二、一五「ミリオ」留「麻」トルクネツレ播
種面積ハ二、一ニ「ミリオ」留日向葵ノ播種面積ハ三、一

八。ミリオンの定ム

々。飼料用作物播種面積ハ一、八六「ミリオン」ニ定ム

三。全「CCCP」ヲ通シテ普通「ケクタ」ヨリノ收穫高ニ對

シ次ノ如キ課題ヲ設定ス各禾穀ニ對シテハ一〇、二「セント

ネル」灌水法ニ依ツテ栽培スル棉花ニ對シテハ一、二「セン

トネル」灌水法ニ非サル棉花ニ對シテハ三、六「セントネ

ル」麻「トルクネツ」ニ對シテハ三、七「セントネル」砂糖大根

ニ對シテハ二〇、四「セントネル」ニ定ム内砂糖生産總管理

局「ソグホーズ」ニ於テ二〇「セントネル」ニ決定ス

日向葵ハ八、五「セントネル」煙草ハ一〇、二「セントネル」「マホ

ルカ」ハ一六、四「セントネル」馬鈴薯ハ一、五「セントネル」ニ定

ム

四。一九三六年度ノ一、八三「ミリオン」ケクタ「ヨ」一九三六年度ノ

二、八「ミリオン」ケクタ「ル」ニ進涉スル「コルホーズ」ノ種子ノ春

播禾穀面積ヲ増加シ種子品質保障ヲ為シ「コルホーズ」

ニ於テ春播種面積ヲ四「ミリオン」九〇、〇〇〇「ケクタ」

迄増加スヘキ責任ヲ「CCCP」農民人民委員部ニ負

擔セシム

五。玉蜀黍及蕎ノ收穫高カ特ニ減少シタルコトヲ指摘シ一九

三六年度ニ於テ此等作物ノ收穫高ヲ増加スヘキ「CCCP」

中央執行委員會ハ農務人民委員部ト其ノ地方機關「エ

ムラス」「コルホーズ」及「ソグホーズ」ニ責任ヲ負ハシム

六。播種面積ト收穫高ヲ向上スルニ伴ヒ一九三六年度ニ農村

經理產物量ヲ左ノ通り決定ス

記

禾穀 六三八〇「ミリオン」

内譯

「コルホーズ」

五三九〇「ミリオンプクト」

「ソアホーズ」

九九〇「ミリオンプクト」

(内人民委員部「ソアホーズ」三八〇「ミリオンプクト」)

尚之レカ種別ハ

棉花大麻

四〇「ミリオンプクト」

麻

七八「ミリオンプクト」

砂糖大根

二五四「ミリオンプクト」

油(日葵實)

二七「ミリオンプクト」

煙草

九四「ミリオンプクト」

マホルカ

八二八「ミリオンプクト」

馬鈴薯

八五四「ミリオンプクト」

七、收穫高ヲ増加シ除草ヲ迅速ナラシムル為一九三六年度

「コルホーズ」ニ於ケル耕作面積ノ計畫ヲ二七「ミリオンプクト」

四一五「ケクタタル」ニ増加スルコト

八、一九三六年度ニ於ケル鑛物肥料ヲ増加スルコト

「カリンサン」石灰 一五五〇千噸

「リンサン」粉 六八五〇

「カリ」肥料 三〇〇〇

「トマスラク」 四五〇

窒素肥料ハ一九三五年ニ比シ六三%以上増加スル様準

備スルコト

九、一九三六年度ニ六七五箇所ノ新シキ「エムテス」ヲ組織シ其

内春季ニハ四六五箇所ヲ完成スルコト

一、一九三六年度ニ「エムテス」トラクタール作業ノ範圍ヲ一六五

五「ミリオンプクト」ニ承認スルコト

一、一九三六年度農村經理ノ為一九三三年馬力ヲ有スル
八四千台ノ「トラクタール」ヲ供給スルコトニ定ム

其内譯左ノ如シ

「ゼテセロー」 二三、〇〇〇台

「セテセトゼテセロー」 四三、八〇〇台

「ウニマルサルロアロー」 一七、二〇〇台

二、一九三六年度「エムテス」へ播種機五、九八〇台ヲ送付ス
ルコトヲ承認シ其内秋收「カンパニヤ」ニハ二八、五八五台
ヲ送ルコトヲ承認ス

一九三六年度「エルホーズ」ニ於テ「コンパイン」トシテ禾穀
ト日向葵ノ秋收ヲ一九三五年度ノ六、七八「ミリオン」ケク
タルニ準シ「一七、五〇〇」ミリオンケクタルヲ實行スルニト
一九三六年度ニ農村經理ニ對スル機械ノ總供給ヲ一九三

五年度ノ値段ニテ九一「ミリオン」留ヲ實行スルニ其
内一、五千台ノ「トラクタール」科、六五、六二〇台ノ治田機、八
〇千台ノ「トラクタール」禾穀播種機、九千台ノ棉花播種
機、七五〇台ノ砂糖大根播種機、四千台ノ動力式打麻
機、八千台ノ砂糖大根除根機、一〇、〇〇〇台ノ各種打穀機
ヲ供給シ一九三六年度ニ「コンパイン」ノ生産ヲ北方地方用
「コンパイン」一、千台ヲ含ミ六、一〇〇台迄ニ生産ヲ實行
スルコト

三、畜産業ニ對スル計畫

一、今年度ノ増殖ニ於テ幼畜養殖計畫ヲ左ノ通承認ス

仔馬 二「ミリオン」三千頭

仔牛 一三「ミリオン」二千頭

仔豚 二四「ミリオン」六、〇〇千頭

小羊及犍 二二「ミリオンの」三二七千頭

二一九三六年度末迄ニ家畜ノ總頭數ヲ左ノ通り増殖スルコト

馬 一七、一「ミリオンの」頭

牡牛 五四、一「ミリオンの」

牝牛 二一、六「ミリオンの」

豚 三一、五「ミリオンの」

羊、犍 一六、二「ミリオンの」

三一九三六年度末迄「ホルホーズ」ニ於テ馬ハ三〇「ミリオンの」ハ

〇、〇〇〇頭「ホルホーズ」牛乳生産所ニ於テ大有角獸ト去

勢牡牛バ一九「ミリオンの」一三五、〇〇〇頭ニ増殖シ其ノ内牝

牛ハ四「ミリオンの」六〇、〇〇〇頭「ホルホーズ」商店「ベルコ」

ニ於ケル豚ハ七「ミリオンの」三〇、〇〇〇頭、羊ト山羊ハ一「ミ

リオン」ニ八五、〇〇〇頭ニ達成セシムルコト

四、家畜養殖事業ニ於テ「ホルホーズ」會員ヲ援助スル為

「ソアホーカ」ニ於テ「ホルホーズ」ニ賣渡計畫ヲ設定シ小牛

ハ一七、〇〇〇頭小豚ハ五、〇〇〇頭小羊ハ三六、五〇〇

頭ニ定ム此ノ外「ホルホーズ」商品「ベルマー」ニ於テ小牛

ハ二五、〇〇〇頭小豚ハ二五、〇〇〇頭小羊ハ五、〇〇〇

頭乳牛ナキ「ホルホーズ」會員ノ為「ホルホーズ」會員ト四

散農戸ニ對スル小牛豫約計畫ヲ一「ミリオンの」三〇、〇〇〇

頭ト決定ス

五、飼養ノ基礎ヲ將來堅固ナラシムル目的ヲ以テ一九三六

年度ニ五「ミリオンの」一ニ三、〇〇〇「ケクタール」ノ一年飼養

草ノ播種計畫ト三「ミリオンの」七三〇、〇〇〇「ケクタール」ノ永

年性飼養草ノ播種計畫ト「ミリオンの」九、〇〇〇「ケクタール」

ノ飼養用有根食物ノ播種計畫及八九四、〇〇〇「ケクタール」

ノ「シロス」作物ノ播種計畫ヲ承認スルコト
永年性物ノ種子ヲ準備シ置ク為面積九二〇、〇〇〇「ケクタ
ルト」草坪ト牧場面積九「ミリオン」五〇〇、〇〇〇「ケクタ
」ヲ改善セシムル計畫ヲ設定スルコト

六、畜産業ノ動物學上及獸醫學上ノ改善ヲ將來益堅實ナ
ラシムル為一九三六年度ニ左ノ如ク決定ス

動物學研究所 九〇、〇〇〇所

獸醫學研究治療所 六〇、〇〇〇所

同補助醫員治療所 九〇、〇〇〇所

七、農村經理ニ於ケル建築費總額ヲ左ノ如ク決定ス

總額 二「ミリオン」六三三「ミリオン」留

内譯

農務人民委員部 二「ミリオン」二二「ミリオン」留

「ソアホー」人民委員部 六二「ミリオン」留

四、運輸業及連絡ニ對スル計畫

一、鐵道運輸業ニ於ケル貨物流動量ヲ四五七「ミリオン」噸ニ

決定シ平均一晝夜間ノ運輸量ヲ七八、五〇〇車輛ニ定ム

二、貨物機關車ノ普通一晝夜間ノ走行距里ハ二五九「キロメ

ートル」貨物用車輛ノ普通一晝夜ノ走行距里ハ一四三

料、貨物用車輛ノ循環ヲ六、七晝夜ニ定メ貨物列車ノ最

大速力ヲ時速一九料ニ定ム

三、鐵道ニ依ル勞力生産能率ノ長成ハ一九三五年ノ普通一

年度ノ生産能率ニ比シ一九三六年度ニハ八四%ニ修繕工

場ト機械製造所ニ於テハ二三%ト定ム

一九三五年度ノ普通一年間ノ原價ニ比シ一九三六年度ニ

ハ二、六%ノ原價ノ減下ヲ定ムルコト

四、一九三六年度ニ至リ鐵道網ノ利用上距里ヲ八四九〇〇料
ニ定メ（假營業線ヲ除ク）其内一六一九料ハ電鐵線ト
定ムルコト

五、交通人民委員部ニ對シ基本敷設費總額ヲ五〇ミリアー
五九〇ミリオンニ留メ承認シ其内左ノ如ク定ム
從來ノ利用網 二〇ミリアート六〇ミリオンニ留

新規鐵道線敷設 五〇〇ミリオンニ留
複線敷設 五六五〇ミリオンニ留

基本的建築費ハ一〇%ニ節約スヘキコトヲ打算シ交通
人民委員部ノ基本建築事業ノ財政支出額ハ四〇〇
ニ留メ承認スルコト

一九三六年度ニハハ〇料ノ新規鐵道線ヲ利用セシムヘク
交通人民委員部ニ責任ヲ負ハシム此ノ内譯左ノ如シ

カラカントー「バラス」間 四八八料

複線利用ニ 二〇七五料

電鐵線ニ 六〇〇料

「カンタラツクサ」ー「イバチツ」ー「メロア」線 一〇四料

「コルアラコタルスカヤ」ー「ジュリムスカヤ」線 一八四料

一九三六年度ノ一年間ニ「タルスタ」ヲ經由スル「マスコー」

ー「トンバス」線「トンバス」ー「タイポイロク」線「スベルロムスク」

ー「コルアラコタルスカヤ」線「スベルロムスク」ー「イカイ」線ノ各

各ヲ改善スルコト

一九三六年度ニ完全ナル能力ヲ以テ「ウラン」ー「ウレンスク」
間ノ機關車々輛修繕「コンビナート」ト四ヶ所ノ車輛修

善工場（「リイントムスク」カナハラク「タルニツク」及「ホバ
ニマルスク」ノ事業ヲ保障スルコト

六、水上運輸業ニ對スル運搬量ハ江河運輸業ニ於テモセ

五、六「ミリオン」噸海上運輸業ニ於テ三、六「ミリオン」噸
ト決定スルコト

内部水路ニ於ケル航海網延長線ヲ九、八〇〇。料ト定ム
八四、二〇。料ニ延長スル利用網ノ水路ヲ航海標識ト定
メ其内燈台トシテ六三、三〇。料ヲ保障スルコト

水上運輸業ニ對スル基本的事業費ノ範圍ヲ一「ミリ
アート」五三三「ミリオン」留ニ定メ其内「ホルカ」一「ミス
コ」運河建設ト利用ニ對スル準備ニセ〇二「ミリオン」
留トシ財政支出ハ一「ミリアート」三六四「ミリオン」留ト定
ム

五

六、公民航空隊ノ航空線網ハ一九三六年度ニ五四、〇〇。料ト
定メ基本的建築事業ノ範圍ハ三〇〇「ミリオン」留ト定
メ財政支出ハ二六七「ミリオン」留トス

八、「C.C.P」内務人民委員部ノ道路運輸業中央管理局
例トシテ、基本建築事業ノ範圍ヲ六五〇「ミリオン」
留ニ定メ財政支出ハ五七八、五「ミリオン」留ニ定ム

完成セル自動車道路網ノ敷設ヲ急範圍ニ着手スヘ
ク内務人民委員部ニ責任ヲ負ハシムルコト

九、逓信人民委員部ノ作業進捗ヲ八三%ト判定シ逓信
ニ對スル基建範圍ヲ四〇〇「ミリオン」留ニ承認シ財政
ノ支出ハ三五六「ミリオン」留ヲ承認スルコト

五、市共同住宅經理ニ對スル計畫

一、市共同住宅經理建設ニ對スル基本的事業ノ總範圍ハ



四、ミリアート九五〇「ミリアオン」ニ承認シ執行委員會ト住宅共利組合ノ住宅「ポイント」及安全装置ニ對スル各種ノ對策ニ六ニ三「ミリアオン」留ヲ支拂フ

六、水道トシテセケ所ノ都市灌漑化トシテ一ヶ所ノ都市ヲ又電車ニ對シテセケ所ノ都市ヲ保障スルコト

三、「トンネツクバセイ」ノ衛生施設ヲ基本的ニ改善スル目的ヲ以テ一五ヶ所ノ都市ト「トンプス」ノ労働者ヲ部落ニ於テ區域的ニ附建物ノ建設ヲ實施スルコト

六、商品流動及需要品生産ニ對スル計畫

一、一九三六年度ニ廣ク需用セラル工業上ノ商品ト食料品商品ノ量ヲ次ノ如ク決定ス

一、國家産業ト消費同盟中央ノ産業ニ於テ二、三「ミリアート」留

二、手工業生産「コベリチヤ」ニ於テ七「ミリアート」ニ八三「ミリアート」留

ニ、實施サレル散賣値段トシテ國家及共利組合ニ於ケル小賣商品ノ流動ノ範圍ヲ一〇〇「ミリアート」留ニ定ム

三、一九三六年度ニ國家及共利組合ニ於ケル小賣値段ハ將來低下ヲ保障スルコト

七、勞力人材及文化ニ對スル計畫

一、各人民經理管理機關及文化建設ニ對スル労働者ト事務員ノ總數ヲ二五「ミリアオン」ニ五、〇〇〇名ニ決定ス

一、大聯邦及「コベラチヤ」産業ニ 九三、四一七、〇〇〇名

二、農村經理企業ニ 二七、五三、〇〇〇名

三、各種運輸業ニ 二八、〇二、〇〇〇名

四、通信ニ 三、四三、〇〇〇名

ケ 商業的企業所

一八三五、〇〇〇名

六、共同的飲食企業所

四四六、〇〇〇名

ク、建築業

二四二、〇〇〇名

ニ 各人民經理管理及文化建設ニ於ケル貸金豫定金ヲ一九

三五年ノ五六ニ「ミリアート」留ニ比シ六三四「ミリア

ト」留ニ定ム

三、人民ノ社會文化上ノ要求ニ對スル消費量ノ總額ヲ豫算

案ニ依リ「七」ミリアート「六三八」ミリオン「留」決定ス

之レハ一九三五年度ニ比シ三三、六%ノ増加ヲ示ス

教育事業ニ對スル基本的事業ノ範圍ヲ一九三五年

度ニ比較シ五五〇「ミリオン」留ヲ「一」ミリアート「二

七八」ミリオン「留」健康保護ニ對シテハ一九三五年ニ

比シ四三〇「ミリオン」留ヲ「七〇〇」ミリオン「留」ニ定ム

ニ

四、労働者及事務員ノ健康保險ニ對スル一年間ノ豫算ヲ一

九三五年ノ六、七「ミリアート」留ニ比シ八「ミリアート」留

ニ定ム

五、學校ヲ卒業スル學生數ヲ左ノ通り決定ス

各種大學

八五三、〇〇〇名

専門學校

一三八、〇〇〇名

労働學院

六九七、〇〇〇名

工業學校

二九一、〇〇〇名

一九三六年度第二次五ヶ年計畫ノ第四年目ノ人民

經理計畫ハ我國家ノ政治及經理能力、經濟的自立ト

國防能力ノ鞏固ヲ保障スルモノナリ

一九三六年度計畫實現ハ人民經理ノ重要ナル部門ニ對

スル第二次五ヶ年計畫ヲ四年間ニ實行スヘキコトヲ豫

約スルモノナリ

「C C P」中央執行委員會「スタハノズ」運動ヲ奮ク開
展シ先進労働者「スタハノズ」等ノ經驗ヲ工業ニ運輸業
ニ農村經理企業所ニ傳達シ各企業所ヲシテ「スタハノ
ズ」的兄弟一週回六日制ヲ一週回五日制ニ改正スル標準
備セシメ然シテ事業カ「スタハノズ」方法ニ依ル巨久的事
業方法ト為サシハルコトヲ計畫實行ノ指導原理ト定ム
「C C P」中央執行委員會ハ二次五年計畫實行ノ為ノ闘
争ニ於テ「ホルセヴエク」ノ原理ヲ指導スル全同盟共產黨中
央執行委員會十二月擴大委員會ノ決定ニ從ヒ「スタハノズ」
運動ノ發展ニ相當ナル組織性ト指導性トヲ興フヘキコト
ヲ「ソヴエート」及經理團體ノ各種指導ノ負擔ト認定ス
特ニ「コルホーバ」ト「ソダホーバ」ノ機械的武力ノ偉大ナ
ル擴張ト最高ノ收穫ヲ興ヘル技術的人材ノ教育ト連鎖
シ農村經理ノ將來ノ向上ニ對スル一九三六年度ノ計畫ハ
禾穀及技術作物收穫ノ新シイ向上ト牧畜業ト其産業
カ將來一増成長ヘキコトヲ確保スルモノナリ

「C C P」中央執行委員會ハ全体「ソヴエート」及經理組
織ヲ一層改善セシメ「スタハノズ」運動ニ基イテ勞力生産
能率ヲ一層向上セシウルコトヲ支障スル官僚主義ト保守
主義ノ闘争ヲ計畫實行ノ重要ナル條件ト定メ労働階
級ノ文化一技術的水準ノ急速ナル發達トシテ喚起セラ
レタル新條件ト新要求ニ從ヒ事業ヲ改造スヘキコト
ヲ「ソヴエート」及經理團體ノ各指導者ニ要求スルモノナリ
工業ト運輸業人民委員部ハ指導上彼等ニ從属スル企
業所ニ對スル生産ノ技術的參謀部ナリ

斯クアラサレハ工業ト運輸業ニ於ケル「スタハノゾ」運動ヲ
組織發展スルコト不可能ヲアル
都市及農村住民ノ生活狀況ト文化向上ノ新課業トニ伴
ヒ都市及農村「ソツエート」ノ各事業ノ水準ヲ一層向上
セシムルコトヲ要求ス

「CCCP」中央執行委員會ハ平和ニ對スル「ソツエート」
同盟ノ人民等ノ鞏固ナル意志ヲ認メ平和政策ハ等シク
徹底的ニ進行スル「CCCP」人民委員「ソツエート」ノ活動
ヲ是認スルト共ニ「CCCP」中央執行委員會ハ一九三六
年度ニ設定セル經理課業實行ヲ確保シコレニ基イテ
「CCCP」ノ國防能力ヲ將來一層鞏固ナラシムル事カ平
和ノ為ノ闘争ヲ成果ニ達成スルニ必要ナル條件ト認定ス
ルモノナリ

九

第二次五年計畫ノ第四年ノ計畫トシテ設定サレタ課業
業實行ハ階級的分子ノ自体ニ闘シ強ク革命的覺醒ヲ
持テ資本主義ハ殘黨ト烈シク闘争スルコトヲ要求
スルモノナリ

「CCCP」中央執行委員會ハ全同盟「ボルシツイク」ノ周圍
ト「ソツエート」主權ノ周圍ニ密接ニ結束シ此ノ決定ニ
設定サレタル大ナル經理的課業ヲ實行スル為メ第二次
五年計畫ノ社會主義ヲ一層鞏固ナラシメ生産能力ヲ
大ニ向上セシメ經理ト文化ノ各部門ニ於テ「CCCP」
ヲシテ先進的社會主義國家ニ變換スル基本的課業ノ
實行ヲ一層迅速ニ展開スヘク各労働者事務員「コル
ホーカ」員、都市ト農村ノ各労働者大衆ニ喚呼スルニ
ナリ

一九三六年一月十四日
於マスコーレクレムリ

E-1623



副副三

機密公第一五七號

昭和十一年四月二十二日

在「ソヴェエト」聯邦

特命全權大使 大田 爲



外務大臣 有田 八郎 殿

五年計畫ニ關スル「メジウク」ノ談話ニ關スル件
四月二十日外務人民委員部ノ夜會ニ於テ國家計畫委員會議長「メジ
ユラウク」ハ館員ノ問ニ對シ第二次五年計畫最初ノ豫定ハ最終年度
タル明年ノ第一四半期ニ完了スル見込ナルカ第一次五年計畫ニ於ケ
ル如ク五年計畫ヲ四年間ニ實行セリトナシテ之ヲ切上クルコトナク

第一課

昭和十一年五月廿二日接受

(赤印紙)

(赤印紙)

明年度ノ年次計畫ハ例年ノ通り別ニ作成ス目下第三次五年計畫ノ具
體的立案中ニシテ種々興味アル計畫ヲ含ミ居レルカ重點ヲ國民文化
ノ向上ニ置ケル點ハ第一次及第二次五年計畫ト題ヲ異ニシ居レリ斯
テ今後數次ニ亘ル五年計畫ノ繼續的實行ト革命後ニ生レタル新分子
ノ増加トニヨリ漸次各人カ自己ノ慾望ニ基キ物資ヲ取得スル所謂共
産主義時代ノ實現ヲ期待シ居レルモ此間三十四年ヲ要スヘク而シテ
今後四十年ニ於ケル「ソ」聯ノ人口ハ約三億トナル見込ナルヲ以テ
之ヲ基準トシテ大綱ヲ定メ國民經濟計畫ヲ樹テ居ル次第ナリト語レ
ル趣ナリ
右何等御參考迄報告ス

E-1623

歌
一
課

昭和十一年七月拾五日接受

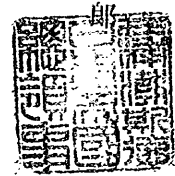
昭和十一年七月拾五日接受

普通第二二六號

昭和十一年七月六日

在浦潮斯德

總領事 杉下裕次



外務大臣 有田八郎 殿

第二次五年計畫公債第四年度分發行ニ關スル件

本月三日赤旗紙ハ本件公債發行方ニ關スル本年七月一日附法令並其細則ヲ掲載シ居ル處今次ノ右公債ハ總額四十億留期限二十ヶ年年利四分ニシテ(イ)第三次工業化富籤附内國公債(ロ)五年計畫ヲ四ヶ年ニ「富籤附内國公債(ハ)五年計畫ヲ四ヶ年ニ」公債第三年度(ニ)五年計畫ノ完成上最重要ナル決定の年度(ハ)發行内國公債(ニ)五年計畫第四年度(完成年度)公債及(イ)第二次五年計畫公債第一年(ニ)度、第二年度及第三年度分發行公債トノ書替ヲ認メ居ルモノナル

在浦潮日本帝國總領事館

Fy. 1. 0. 1-1

カ當地ニ於テハ本法令發布ト共ニ市中目抜ノ場所ニ赤布ヲ以テ之ヲ宣傳シ赤旗紙其他當地ニ於テ發行セラル、新聞紙ハ舉テ之カ購入ヲ勸勵シ「ソ」聯邦ニ於テハ勞働階級ト國家ノ利害相一致スルカ故ニ勞働者ハ欣然之ヲ購入シ以テ國家ノ事業ヲ援助スルニ咨ナラスト稱ヘ居レリ
因ニ本件法令發布ニ先チ客月二十七日附「ルイブナヤ、インドス」トリヤ」紙ハ公債乃至貯金ノ實際の利用振リニ付記述ヲ試ミ公債ノ發行ニ際シ一定シ金額カ地方財源トシテ地方豫算ニ繰込マレ居ル處此等ノ地方豫算ヘノ振當額ハ地方ノ經濟的文化的建設事業ニ充當セラレ住宅、學校、病院等カ建設セラル、次第ナルカ第二次五ヶ年計畫ノ過去三ヶ年間ニ於ケル公債ノ地方振當額ハ二十七億二千三百九十萬留ニ達シ本年度ノ如キ第一、四半期ニ於テ十一億七千七百七十萬留ノ巨額ニ達シ居レリト報シタルカ右ハ客月三十日附赤旗紙ニ轉載セラレタル「ブラウダ」ノ論説カ普通蘇聯邦内國公債ノ期限十ヶ年ナルヲ短シトシタル論旨ト共ニ今回ノ長期且莫

在浦潮日本帝國總領事館

大ナル公債發行ニ關シ國民ニ對シ準備宣傳ヲ爲シタルモノト見ル
ヲ得ヘシ

右報告申進ス

本信寫送付先

在「ソヴェト」聯邦大使
在「ハバロフスク」總領事

在浦潮日本帝國總領事館

E-1623

E4.1.0.1-1

歐亞局

公機密第一〇八五號

昭和十一年九月二十二日

在間島
總領事 川 村

外務大臣 有 田 八 郎 殿



昭和十一年九月二十二日機密第一三五〇號寫送付

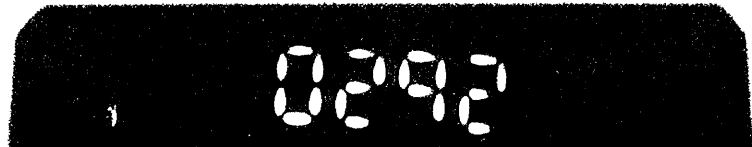
在 滿 大 使 宛

一、蘇聯ノ五個年計畫強行カ被搾取階級ニ與ヘタル影響
ニ關スル件

名 件
ノ子
カ多
昭和十一年九月廿八日接受D

附屬添付

在間島日本總領事館



寫

機密第一三五〇號
昭和十一年九月二十二日

在間島

總領事 川村 博

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙吉 殿

蘇聯ノ五個年計劃強行カ被奪取階級ニ
與ヘタル影響ニ關スル件

哈達門警察分署長報告

蘇聯ノ五個年計劃ニ関シテハ其ノ當初ヨリ資本主義的經濟學者間ニ机上ノ空論視サレ来リタル處ナルカ蘇聯當局ニ於テハ之カ貫徹ニ全カヲ傾

注シ所有犧牲ヲ忍ビ國民經濟ノ各部門ニ對シ全ク極端ナル課業ヲ嚴命シ其ノ遂行ニハ寸毫ノ懈怠ヲモ許ササル強行政策ヲ執リ居レル為下層勞働者農民階級ハ堪ヘ難キ負擔ノ下ニ呻吟シ而モ毫末ノ過失アラハ苛酷ナル法律制裁ヲ受ケ為ニ總テヲ犧牲ニシテ政府ノ計画履行ニ努力シ居レル結果爾餘ノ產業荒廢ニ歸シ牛馬亦斃死シ加之衣類ノ配給モ充分ナラス

而モ蘇聯政府ハ徒ラニ數字の指導ニノミ拘泥シ數字的成功ヲ以テ計画ノ成功ヲ揚言シ居リタルモ農作物ノ收穫ハ如キ質的價值的ニ漸次低下ノ傾向ヲ示スノ現狀ナリ

然ルニ政府當局ハ斯ル施政上ノ失敗ヲ認テ組合

員等、怠慢ニ基ク命令違反ナリトシ組合ノ責任者會社員、多數ニ強制労働流刑等ノ極刑ヲ課シ居レル為被壓迫階級ノ反蘇意識愈濃厚トナリ反スターリン運動ノ激化ヲ見ルノ状態ニ立至レリ
左表ノ如クニシテ彼此對照スレハ如何ニ政府政策ノ苛酷ナルカヲ窺フニ足ルヘシ

一 農作計畫並履行最高定率表

穀物種類別	一人一年間ノ一人一日耕作		一人一日播種		牛一頭一日耕作	
	計畫定率	履行定率	計畫定率	履行定率	計畫定率	履行定率
大豆	五五	五〇	〇、五五	〇、三五	〇、五五	〇、三五
燕麥	四五	三〇	〇、四五	〇、二五	〇、五五	〇、三五
甘藷	三〇	三〇	〇、四五	〇、二五	〇、四五	〇、三五
稗	四五	四五	〇、四五	〇、二五	〇、四五	〇、三五

大豆	一人一日耕作		一人一日播種		牛一頭一日耕作	
	計畫定率	履行定率	計畫定率	履行定率	計畫定率	履行定率
大豆	五〇	五〇	〇、三五	〇、二五	〇、四五	〇、三五
大豆	四五	四五	〇、四五	〇、二五	〇、四五	〇、三五

二 除草計畫並履行最高定率

穀類種別	一人一日ニ除草スヘキ計畫定率		全上履行定率	
	計畫定率	履行定率	計畫定率	履行定率
大豆	〇、五〇	〇、三五	〇、三五	〇、二五
燕麥	〇、五〇	〇、三五	〇、三五	〇、二五
甘藷	〇、三五	〇、三五	〇、三五	〇、二五
稗	〇、三五	〇、三五	〇、三五	〇、二五
大豆	〇、四〇	〇、四〇	〇、四〇	〇、二五
雜蔬	〇、三〇	〇、三〇	〇、三〇	〇、二五

本信寫送付先
外務大臣、朝鮮總督 咸北知事 第十九師團參謀長

羅南憲兵隊長 鷹森部隊長本部 延吉憲兵隊長
延吉特務機關長 袁妻海軍部員

E-1623

0295

調査課

歐亞局

公普通第三三號

昭和十二年 一月二十八日

第一課

在黑河

副領事 本多 隆

別紙添付

昭和十二年正月九日 接受

外務大臣 有田 八郎 殿

昭和十二年 一月二十八日 附

普通 第三六號

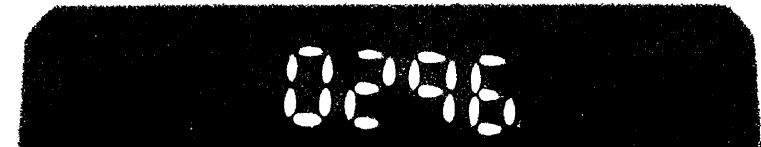
在滿大使 宛 往信寫送附ス

件 名

一、第二次五年計畫遂行狀況ニ關スル「ソ」紙記事譯報ノ件

E.Y. 1.0.1-1

E-1623



普通第三六號

昭和十二年一月二十八日

在黑河

副領事 本多 隆平

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙吉 殿

第二次五年計畫遂行狀況ニ關スル「ソ」紙記事譯報

一月五日哈府發刊「チホオケアンスカヤ・ズウエズダ」紙ハ第二次五年計畫遂行狀況ニ關スル「ア・チャダエフ」ナル者ノ寄稿ヲ掲載シ居ルニ付何等御參考迄別紙ノ通譯報申進ス

本信寫送付先 外務大臣

在齊々哈爾日本總領事館黑河分館

第二次五年計畫遂行狀況

蘇聯邦ハ第二次五年計畫ノ最終年タル第五年ニ道入ツタ、第二次五年計畫ノ過去四年ハ社會主義建設ノ有ラユル方面ニ於テ絶大ナ勝利ヲ博シ「蘇聯邦ニ於テハ共產主義ノ第一狀態タル社會主義ハ大体ニ於テ實現サレタ」ナル「スターリン」ノ言ハ現代ノ最モ偉大ナ文書「スターリン」ノ憲法中ニ「蘇聯邦經濟ノ基礎ハ資本主義經濟制度ノ清算、生産要具及手段ノ私有廢止並人間ニ依ル人間ノ搾取廢絶ノ結果確立セル社會主義經濟制度並生産要具及手段ノ社會主義的所有之ナリ」トシテ記入サレタ。
「スターリン」ノ憲法ハ蘇聯邦諸民族ノ鬭争及勝利ノ偉大ナ總計テアツテ此ノ總計ハ先ツ第一ニ「國民經濟ノ有ラユル方面ニ於ケル完全ナル勝利ハ今ヤ事實テアル、人間ニ依ル人間ノ搾取ハ廢絶サレ清算サレ「ソウワイエト」社會ノ不動ノ基礎トシテ生産要具及手段ノ社會主義的所有ヲ確立サレタ」(「スターリン」ノ言)コトニ存スル

在齊々哈爾日本總領事館黑河分館

ノテアル

蘇聯邦ハ強力ナ世界的工業國トナツタ、ソシテ村落ニ於テハ「コル
ホーズ」組織カ決定的ノ勝利ヲ占メテ強化シ第二次五年計畫ノ使命
タル五年計畫ノ終期迄ニ集團化ヲ完了スルコトハ完全ナ實現ニ近付
キツツアツテ既ニ全農戶ノ九割ハ「コルホーズ」ニ加入シタ
勞働者「コルホーズ」員知識階級ノ大衆ノ意識ノ上ニモ一大變化カ
起ツタ、一九三五年五月赤軍大學生引見ノ際ノ演說中ニ放ツタ「幹
部ハ万事ヲ解決ス」ナル「スターリン」ノ標語ハ勤勞者ノ勞働ノ熱
意ヲ高調セシメ實際ニ於テ社會主義勞働ノ眞ノ模範テアル偉大ナ「
スタハ」ノ「フ」運動ナルモノカ勞働者大衆ノ中カラ擡頭シ此ノ運動
ハ蘇聯邦ノ前進ヲ促進シタ、「スタハ」ノ「フ」運動者ニ依ル新餘力
ノ發見及同運動者ノ到達シタ高率ナ指數ハ特ニ資本ヲ投下スルコト
ナク第二次五年計畫ノ最重要部門ニ關スル課題ヲ實行スルノミナラ
ス超過實行スル可能ヲ與ヘツツアル、例ヘハ黑色冶金業ニ於テハ黒

在齊々哈爾日本總領事館黑河分館

色金屬生産ニ關スル第二次五年計畫ノ課題ハ五年計畫ニ依リ豫見サ
レタ數量ヨリモ著シク少ナイ「アグレガト」ヲ運轉シテモ遂行セラ
ルルテアロウ、即チ銑鐵ニ於テハ熔鑪爐四十五ノ代リニ二十一、鋼
鐵ニ於テハ「マルテン」爐百六十四ノ代リニ九十四、延鐵ニ於テハ
延鐵機百七ノ代リニ五十六ヲ運轉スレハ良イノテアツテ之ハ黑色冶
金業ノミニ付テ見テモ投資ニ於テ約三十億留ヲ節約シ得ルコトトナ
ルノテアル

一九三六年度ニ於テ全工業ハ同年度ニ對スル第二次五年計畫ノ生産
課題ヲ一割二分タケ超過遂行シタ
重工業ハ一九三六年度ニ於テ一大成功ヲ收メ第二次五年計畫ヲ四年
間テ遂行シタ、蘇聯邦工業化ノ基礎タル重工業ノ達成ハ第二次五年
計畫ノ最重要課題タル全國民經濟ノ技術的改造ノ完成ヲ解決スル上
ニ於テ著シキ成功ヲ保障シタ、第二次五年計畫ノ四年間ニ大建設事
業ノ爲消費サレタ金額ハ六百五十億留（第一次五年計畫ニ於テハ五
百五億留）テアツテ基礎的資源ノ價值ハ六割五分ノ増加ヲ來タシ、

在齊々哈爾日本總領事館黑河分館

此ノ四年間ニ國民經濟ノ生産資源殆ト半分タケ改修サレ、工業ニ於テ新工場及完全ニ改造サレタ工場ノ一九三六年一月一日現在ノ割合ハ基礎的資源ニ於テ七割九分八厘ヲ占ム、既ニ一九三五年ニ於テ新工場及被改造工場ノ生産高ハ全工業企業生産高ノ六割八分八厘トナリ現在蘇聯邦ハ建設期ニ於テ最新シク又技術ノ水準ニ於テ歐洲ノ最先端ニ立ツ生産装置ヲ所有シテ居ルノテアル

第二次五年計畫ハ労働生産率ノ方面ニ於テ大成功ヲ收メタ點ニ於テモ意義アルノテアルカ年別ニ其ノ増加ノ數字ヲ示セハ一九三三年度ニ於テハ三分七厘、三十四年度ニハ一割七厘、三十五年度ニハ一割二分九厘、三十六年度ノ十ヶ月間ニハ二割三分三厘（大工業ニ付前年同期ト比較シ）テアツテ労働生産率ノ増加ニ關スル第二次五年計畫ノ課題ハ四年間ニ遂行サレツツアルノテアル

「スタハノフ」運動ハ舊技術ノ標準及生産標準ヲ顛落セシメ、生産ニ於ケル有害ナル「トロツキ」派ヲ潰滅セシメ、右翼日和見主義者ノ「理論」ヲ粉碎シツツ而モ生産標準ニ於テ資本主義諸國ヲ追越

在齊々哈爾日本總領事館黑河分館

シツツ生産機關ノ利用改善ニ於テ年毎ニ新タナ指數ヲ示シツツアツテ、熔鐵爐ノ平均利用係數ニ於テ既ニ獨乙及米國ノ水準ニ近付キ一九三六年ニハ係數一、〇八ニ達シ以テ五年計畫ノ一九三七年度ニ對スル課題タル一、二〇ヲ著シク超過遂行シタ、鋼鐵ノ平均生産高ニ於テモ獨乙及米國ノ標準ニ近付キツツアツテ「マルテン」爐底一平方米ノ一九三六年度鋼鐵生産高ハ五年計畫ノ一九三七年ニ對スル課題カ四、一二噸ナル時ニ當リ四、七噸テアツタ

第二次五年計畫ノ四年間ニ農業ニ於テモ一大成功ヲ收メタ、第二次五年計畫ニ於テハ農業ノ技術的改造完成ノ課題カ好都合ニ解決サレツツアル、第二次五年計畫ニ依レハ一九三七年末迄ニ機械「トラクタ」配給所ノ數カ六千ニナルヘキテアルカ一九三六年度ニ於テ其ノ數ハ既ニ五千ヲ算シタ、計畫ニ依レハ一九三七年末迄ニ機械「トラクタ」配給所ハ其ノ作業中ニ全「コルホーズ」ヲ包容スルコトトナツテ居ルカ一九三六年度ニ於テ既ニ「コルホーズ」播種面積ノ八割ニ奉仕シテ居ル、蘇聯邦農業ニ於ケル「トラクタ」ノ馬力數

在齊々哈爾日本總領事館黑河分館

ハ計畫ニ依レハ一九三七年末迄ニ八百二十万馬力トスルコトニナツ
テ居ルカ一九三六年ニ於テ既ニ八百五十万馬力ノ「トラクター」ヲ
所有シテ居ル又第二次五年計畫ニ依レハ「コンバイン」ノ數ハ一九
三七年末迄ニ十万台ニスヘキテアツタカ同數量ノ「コンバイン」ハ
現在既ニ之ヲ所有シテ居ル状態テアル
新式機械及農業技術ヲ會得シタ「コルホーズ」員ノ「スターハノフ」
的勞働ハ農業ニ於テ眞ニ奇蹟ヲ作リツツアル、一「ヘクター」當リ
棉花收穫高百「ツエントネル」、一「ヘクター」當リ甜菜收穫高千
「ツエントネル」餘、一「ヘクター」當リ小麦收穫高五十乃至八十
「ツエントネル」ト言フカ如キ未曾有ノ收穫高ヲ個人農民カ夢想ス
ルコトカ出來タテアロウカ、而モ今ヤ此ノ未曾有ノ「レコード」ヲ
破ラントシ又當然破ルヘキ幾千ノ「コルホーズ」及「コルホーズ」
員カ在ルノテアル、蘇聯邦ノ農業ハ粒穀物ノ年々ノ收穫高ヲ七十億
乃至八十億布度迄増加スヘシトノ「スターリン」ノ最重要課題ノ遂
行ニ邁進シテ居ル

在齊々哈爾日本總領事館黑河分館

農業ニ次キ畜産モ發達ノ一路ヲ辿ルコトナツタ、國家畜産計畫及
牛乳搾リ、犢飼ヒ、豚飼ヒ、羊番、厩番ノ間ニ行ハレテ居ル「スタ
ハノフ」運動ハ家畜頭數ノ急激ナ増加及家畜生産高ノ向上、搾乳量、
剪毛量等ノ向上ヲ保障セ一九三六年七月一日迄ニ大有角畜ノ頭數ハ
一九三五年七月一日ト比較シ一割五分二厘、馬匹數ハ四分四厘、豚
ハ三割五分一厘、羊及山羊ハ二割六厘ノ増加ヲ示シタ
蘇聯邦ハ各種農産物ノ豊富ナ國トナツタ、輕工業及食糧工業ハ良質
ナ技術原料（棉花、亞麻等）ヲ保障サレテ居ル
鐵道運輸モ大成功ヲ收メタ、鐵道人民委員「カガノウイチ」ノ指導
ノ下ニ鐵道運輸事業ハ極テ短期間ニ決定的轉換ヲ來タシタ、一晝夜
平均積載量ハ一九三四年ニ於ケル五万五千七百車輛ヨリ一九三六年
ニ於テハ八万八千車輛ニ増加シタカ之ハ一晝夜平均積載量ニ關スル
第二次五年計畫ノ課題カ一九三六年ニ於テ九千車輛即チ一割一分タ
ケ超過遂行サルコトヲ意味スルノテアル
機關車及車輛作業上ノ基本的質的改善ニ於テモ鐵道運輸ハ著シイ成

在齊々哈爾日本總領事館黑河分館

功ヲ收メタ、貨物機關車ノ一九三六年度十ヶ月間ノ一晝夜平均走行距離ハ第二次五年計畫ニ依リ一九三七年度ニ對シ定メラレタ距離カ百八十杆ナル時ニ當リ二百三十五杆七、貨車ノ一晝夜平均走行距離ハ百二十五杆ナル時ニ當リ百四十四杆四、營業運轉速度ハ一時間十七杆ナル時ニ當リ十八、四杆ヲ示シ居リ「スタハノフ」運動者「クリウオノソフ」運動者ハ前述ノ一晝夜平均數ヲ數倍モ超過遂行シテ居リ優秀ナ「クリウオノソフ」運動者ニ至ツテハ一時間五十杆ノ速度テ貨物列車ヲ運轉シ又機關車ノ一晝夜走行距離五百乃至六百杆ヲ舉ケテ居ル

第二次五年計畫ニ於テハ蘇聯邦勤勞者ノ物質的福祉及文化向上ノ問題ハ好都合ニ實現サレテ居ル、「スターリン」ハ「生活ハ樂ニナリ愉快ニナツタ」トノ言葉ヲ以テ蘇聯人民ノ氣分ヲ表明シタ、蘇聯邦ニ於テハ人類ノ智者カ夢想シタ勞働ノ權利、教育ヲ受クル權利、休息ノ權利、安靜ニシテ保障ヲ受クル老齡ノ權利ハ征得サレ「スターリン」ノ憲法ニ記入サレタ、第二次五年計畫ノ四年間ニ國民ノ收

在齊々哈爾日本總領事館黑河分館

入及賃銀基金ハ殆ト倍加シ國民經濟ニ於ケル勞働者及勤勞者數ノ增加ハ第二次五年計畫ニ於テ豫見サレタ所ヨリモ一層急速ニ行ハレ四年間ニ勞働者及勤勞者ノ數ハ約三百万人ノ増加ヲ見タ、第二次五年計畫ノ一大成功ハ切符配給制度ノ廢止テアル、第二次五年計畫ハ制限制度廢止ノ準備ナル課題ヲ設ケタカ實際ニ於テハ既ニ一九三六年ハ一年ヲ通シ生産品ノ制限制度ナルモノカ無ク經過シタ、投機者及資本家ノ無キ「ソウイェト」商業發達シ小賣商品流通高ヨリ見レハ一九三六年ニ於テハ第二次五年計畫ノ一九三七年ニ對スル課題ノ遂行ニ近付キツツアル

蘇聯邦ハ日ト共ニ富ミツツアル、生産物ハ豊富ニナリ食料工業ハ早クモ一九三六年度ニ於テ五年計畫ヲ遂行シタ、ソシテ消費ヲ二乃至三倍増加スヘントノ第十七回全聯邦共產黨大會ノ指令ハ好都合ニ實現サレテ居ル

第二次五年計畫ノ四年間ニ勤勞者ノ文化水準向上ノ事業ハ一大躍進ヲ爲シ五年計畫ニ依リ豫見サレタ七年制學校程度ノ政治及技術ノ普

在齊々哈爾日本總領事館黑河分館

通義務教育ハ廣ク實現サレ高等學校、高等技術學校、技術學校網ハ年毎ニ擴大シ養成サレタ専門家ノ年卒業數ハ二十余万ニ達シ又數百萬ノ勞働者ハ技術講習會網ヲ通過シ一九三六年ノミニ於テモ技術學校ヲ卒業シタ者七百余万人、入學シタ者約三百万人テアツテ機械ノ在ル所ニハ必ス中等教育ヲ受ケタ者ヲ見出シ得ルコトナツタ

保健事業モ第二次五年計畫ノ四年間ニ大イニ發達シ、病院寢台數ノ增加及勤勞者ニ對スル療養所及休息所ノ奉仕ニ關スル五年計畫ハ好都合ニ實施サレテ居ル、一九三六年全蘇職業組合中央會議ノ休息所ノミテ奉仕シタ勞働者ハ百七十万人（一九三二年度ハ九十一万四千人）ニ上ツテ居ル、

第二次五年計畫中ニ都市ノ施設モ著シク改善サレタ、四年間ニ電車建設ノ五年計畫ハ遂行サレツツアツテ電車施設ヲ有スル都市ハ第二次五年計畫ニ依ル一九三七年度ノ豫定ハ七十都市テアツタカ一九三六年度ニ於テ七十二都市ニ達シタ

第二次五年計畫ハ各方面ニ於テ好都合ニ實施サレツツアツテ第二次

在齊々哈爾日本總領事館黑河分館

五年計畫期中行ハルヘキ幾多ノ政治經濟上ノ問題ハ既ニ解決サレタ、然シ未タ立チ後レテ居ル部分カアルノテアルカラ之カ克服ハ重要問題テアル、第二次五年計畫ノ最終年タル第五年ニ於テ未解決問題ヲ總テ解決スルノミナラス第二次五年計畫ノ課題ヲ超過遂行スル様努力セネハナラナイ、此ノ爲ニハ「スタハノフ」ノ勝利ヲ倍加シ勞働生産率ノ向上、技術的前進、世界的ニ先驅スル標準ノ達成ノ爲努ムルヲ要スル、斯テ蘇聯邦ハ「フアシスト」・「トロツキスト」及其ノ援助者一右派、資本主義再興者ノ期待ニ反シ技術及經濟關係ニ於テ先進資本主義國ニ追付キ追越スヘキ偉大ナ歴史的使命ヲ最短期間内ニ解決スルコトトナルノテアル

以上

在齊々哈爾日本總領事館黑河分館

歐亞局

第一課

昭和三年六月拾六日接受

公第九三號

昭和十二年五月二十二日

在オデッサ

領事 平田

椽



外務大臣 佐藤 尚武 殿

オデッサ市北郊外ニ建設中ナリシ「クレイキング」工場竣工ノ件

第二次五年計畫ニ依リ豫テ當市北西郊外ニ建設中ナリシ「クレイキング」工場ハ第一期工事ヲ終了シ來ル六月ヨリ愈々作業ヲ開始スル豫定ナリ

當地新聞報ニ依ルニ同工場ノ規模ハ左ノ如シ

工場地域	百ヘクタール
第一期工事費	二千二百萬留（明年竣工ノ第二期工事ヲ合算ス）
一時間海水使用量	七二〇立方米

在オデッサ日本領事館

調査課

マズウト年使用量

高架索ヨリ供給ノ豫定ニシテ油槽船（各容積噸一萬）三十隻分

使用人員

二百六十人

第一期工事ニ依ル生産額

八千萬留

尙本工場設備ハ「マズウト」配給「ポンプ」ヲ除キ全部國産品ヲ使用セリ
右報告ス

在オデッサ日本領事館

(1)

1

第二次五年計畫

第十七回全聯邦共產黨大會ニ於ケル「ヴエー、ヴエー
クイブイシエフ」ノ報告（要譯）

第二次五年計畫ハ主トシテ「スターリン」ノ天才的達見及優秀ナル
指導ニ基キ樹テラレタルモノニシテ右遂行ノ曉ハ「ソ」聯邦國民經
濟總生産高ハ現在ノ二倍以上トナリ歐羅巴諸國ヲ凌駕スルハ勿論米
國ノ壘ヲモ摩スニ至ルヘシ然レ共之カ爲ニハ「プロレタリアート」
ノ獨裁ヲ更ニ一層鞏固ナラシメ労働階級ヲ最大限度ニ團結セシメサ
ルヘカラス余ハ左ニ第二次五年計畫ノ中樞課題及右解決ニ關シ報告
セントス

一、第二次五年計畫ノ中樞課題

第二次五年計畫ハ「ソ」聯邦ノ全國民經濟ヲ技術的ニ建直スヘキ偉
大ナル計畫ナリ其ノ中樞課題次ノ如シ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

(1)

E.P.10.1-1

歐亞局
公普通第八三號

昭和九年五月二十三日

在「ソヴィエト」聯邦
特命全權大使 大田 爲吉

外務大臣 廣田 弘毅 殿

第二次五年計畫ニ關スル「クイブイシエフ」報告
送付ノ件

第十七回共產黨大會ニ於ケル第二次五年計畫ニ關スル「クイブイシ
エフ」ノ報告邦譯及「モロトフ」及「クイブイシエフ」報告ニ對ス
ル決議邦譯別添ノ通送付×御查收相成度

在ソヴィエト聯邦日本大使館

昭和九年六月拾貳日接
サハシ
シノ
シノ
シノ



(イ) 運輸機關ノ改善
 運輸機關ノ不完全ハ「ソ」聯邦國民經濟ノ將來ノ發達ヲ阻害スルモノナリ就中鐵道ニ割當テラルル貨物ハ現在一日平均六萬一千貨車ヲ算スルニ拘ラス實際一日ノ積荷量ハ五萬二千乃至五萬四千貨車ニ過キス而モ機關車及車輛ノ滯留時間多キ爲貨物ノ進行速度ハ一時間平均四軒半即チ徒歩ト殆ント同程度ナリ故ニ第二次五年計畫ニ依リ吾人ハ「ドンパス」ト「クリヴオイ、ログ」間、「モスクワ」ト「ドンパス」間、「ウラル」ト「クスバス」間及其ノ他國內重要地間ニ二重、三重又ハ四重ノ線路ヲ敷設シ總計二十五軒餘ノ新鐵橋ヲ架設シ客車用機關車二千二十五臺、貨車用機關車五千七百臺、乗客用車輛一萬二千五百臺及貨物用車輛二十七萬三千臺ヲ築造シ且十三ノ機關車及車輛修繕工場ヲ建設シ以テ各種列車ノ速力ノ大増進ヲ期シ居レリ
 然レ共國民經濟ノ要求ノ躍進的膨脹ニ適應スヘキ運輸機關ヲ組織セ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

ンカ爲ニハ鐵道ノ建直ノミニテハ足ラス更ニ他ノ運輸機關ヲモ發達セシメサルヘカラス故ニ第二次五年計畫ニ於テハ鐵道ノ貨物取扱量ヲ八割増加セシムルト共ニ河川運輸機關、海運機關、自動車便及飛行機便ノ貨物取扱能力ヲ夫々二倍半、三倍、十六倍及二十三倍半ニ向上セシメ且運輸業ト密接ノ關係ヲ有スル通信事業ノ建直ヲモ行フヘキ豫定ナリ
 (ロ) 重工業ニ於ケル不振部門ノ全幅的開發
 重工業ニ於ケル不振部門ノ急速ナル開發モ亦重要ナル課題ナリ黑色及有色冶金業ハ一九三三年中著シキ發達ヲ遂ケタリト雖未タ満足スヘキ域ニ到達シ居ラス重油、石油及「ベンジン」等ノ生産高ハ自動車、「トラクター」及飛行機ノ急激ナル増加ニ適應スヘク益々増加セラレサルヘカラス又農業ノ收穫率ヲ向上セシメ且機業ニ對スル染料ノ供給及國防ノ充實ヲ保障スル爲各種化學工業ヲ發達セシムルコト並ニ泥炭及石炭採掘業、黑色冶金業、建築業、林業等ノ器械化ヲ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

完成シ勞力ノ節約ヲ計ルコトモ重工業ノ技術的建直ノ見地ヨリ極メテ重要ナルコトナリ

(ハ) 勤勞階級ノ生活改善ヲ目的トスル物資供給力ノ強化

最後ノ中樞課題ハ勤勞階級ノ物質生活ヲ根本的ニ改善スルコト及右ニ關聯シ都會ト農村トノ物資交易ノ増進ヲ計ルコトナリ而シテ之カ爲ニハ先ツ以テ農業ノ集團化及器械化ヲ完成シ化學肥料及其ノ他ノ肥料ノ應用ヲ盛ンニシ灌溉事業ヲ遂行シ「ソフホズ」ヲシテ試験的模範農業ヲ行ハシメ輕工業ノ原料タルヘキ工藝用作物ノ生産高ヲ増加セシメ就中牧畜業ニ於テハ飼料用作物ノ栽培及短日月間ニ發育スル鳥類、兔、豚等ノ飼育ヲ獎勵シ斯クテ農業ヲ全般的ニ發達セシメタル後之ヲ基礎トシテ輕工業及食糧品工業ノ生産高ノ向上ヲ計リ且民衆ノ要求ヲ考慮シテ製品ノ質的改良ヲ行ハサルヘカラス第二次五年計畫ハ輕工業ノ生産高ヲ現在ノ三倍、食糧品工業ノ生産高ヲ現在ノ二、八倍ニ増加セシメ國民經濟全部門ニ亘ル一般消費品ノ生

在ソヴィエト聯邦日本大使館

産高ヲ現在ノ二、七倍ニ増加セシムヘキ豫定ナルヲ以テ之ト共ニ商業機關網ノ組織ヲ建直シ都會及農村間ノ物資交易ヲ盛ンニシ制限付販賣制度ヲ漸次廢止シテ「ソヴィエト」商業ノ擴張ニ努力スルトキハ「ソ」聯邦勤勞階級ノ生活條件ハ著シク改善セララルニ至ルヘン以上第二次五年計畫ノ中樞課題ヲ遂行センカ爲ニハ全國民經濟ノ技術的建直ヲ行ヒ且新技術ヲ完全ニ習得スルヲ要ス新技術ノ習得ハ第二次五年計畫遂行ノ要諦ナリ從テ經濟機關、黨機關、職業組合機關及「コムソモール」機關ハ新技術ノ習得ニ向ツテ全力ヲ傾注セサルヘカラス

二、民衆ノ生活水準ノ向上

第二次五年計畫ハ農業、輕工業及食糧品工業ノ急速ナル發達ヲ基礎トシ「ソ」聯邦勤勞階級ノ物質生活及文化水準ノ未曾有ノ向上ヲ計ルモノナリ

「コルホズ」市場ノ物價ハ現在ノ三分ノ一乃至四分ノ一ニ低下セラ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

レ又國營「コーベラチーヴ」ノ小賣値段モ現在ノ三割五分乃至四割
 安トナルヘク「コルホズ」員ハ何レモ「スターリン」ノ所謂「裕福
 者」ト成リ勤務員ノ收入ハ實質的ニ現在ノ二十一割ニ増加セラレヘ
 キ豫定ナリ

全聯邦ノ工業化ニ伴ヒ新舊都會及工業中心地ノ人口激増シタル爲第
 一次五年計畫ニ於テハ住宅及其ノ他ノ施設不足ノ結果勤務員移動等
 ノ惡現象ヲ生セリ第二次五年計畫ハ右ニ鑑ミ住宅建設及水道、下水
 交通機關、電燈、瓦斯等ノ諸施設ノ完備ヲ期シ大小四百ノ都市ノ建
 直ヲ行ヒ殊ニ「モスクワ」ニハ「ソヴイエト」宮、技術宮、地鉄
 道等ヲ建設シ「モスクワ」ヲシテ名實共ニ「プロレタリア」國ノ首
 府トシテ恥カシカラサル都會トナスヘシ

保健事業ニ對スル支出豫算額モ第一次五年計畫ノ四倍ニ及ヒ病院、
 醫學研究所、勤務員休養所、療養地、運動場等ノ設備大ニ改善セラ
 ルルコトトナリ居レリ

在ソヴイエト聯邦日本大使館

最後ニ教育事業ニ對スル出資額ハ二拾二億留（第一次五年計畫ニ於
 テハ七億留）セリ「ソ」聯邦ニ於テハ教育ハ一部階級ノ專有物ニア
 ラスシテ最モ民衆的性質ヲ有スルモノナルヲ以テ第二次五年計畫ハ
 各種學校殊ニ普通教育機關網ノ大擴張ヲ行ヒ教師ヲ豊富ニ養成シ固
 定の教科書及其ノ他ノ學用品ノ供給ヲ保障シ且學術研究ヲ益々獎勵
 （學術研究ニ對スル出資額ハ第一次五年計畫ノ二倍半ニ及ヘリ）ス
 ルコト並ニ劇場、「クラブ」、映畫館、圖書館、「ラデオ」網、新
 聞等ノ民衆的教育機關ヲ發達セシムルコトニ特別ノ注意ヲ拂ヒ居レ
 リ故ニ第二次五年計畫遂行ノ後ハ「ソ」聯人ハ完全ニ生レ代リ眞ニ
 恥カシカラサル「ソ」シヤリズム」社會ノ一員ト成ルヘシ

三、第二次五年計畫遂行ノ最大要件タル技術習得問題

第二次五年計畫ハ農工業ヲ始メトシ國民經濟全般ノ技術的建直ヲ完
 成シ以テ勞力ノ節約、勞働生産力ノ増進、生産品ノ原價ノ引下及質
 的改良並ニ賃金ノ實質的增加ヲ計ルト共ニ「ソ」聯邦ヲ技術的及經

在ソヴイエト聯邦日本大使館

濟的ニ獨立シ得ル國家タラシメ且國防ノ安全ヲモ保障スヘキコトヲ豫定シ居レリ而シテ之ヲ實現センカ爲ニハ單ニ外觀ヲ完備セシムヘキノミナラス各勤務員ノ技術ノ熟練ヲ計ラサルヘカラス故ニ第二次五年計畫ハ第一次五年計畫ニ比シ上級學校卒業ノ專門家ハ其ノ二倍又技術學校卒業業者ハ其ノ三倍ヲ出シ且工場徒弟學校及其ノ他ノ民衆的技術教育機關ニ依リテモ技術習得問題ノ解決ヲ計ルヘキヲ以テ右計畫遂行後ニ於テハ「ソ」聯邦ハ國內ニ豊富ニ技術的「インテリゲンチヤ」ヲ有スルコトトナルヘシ

四、各地方ノ開發

工業ヲ其ノ原料產地ニ接近セシムヘキコトノ必要ハ會テ「レ」ニシテノ教ヘタル所ナルカ第二次五年計畫ハ右「レ」ニシテノ遺訓ニ從ヒ輕工業、食糧品工業ヲ始メ各種工業ヲ漸次原料產地ニ接近セシメ殊ニ原料豊富ナル東部諸地方ノ工業化ヲ著シク進展セシムルコトトナリ居レルヲ以テ第二次五年計畫後ニ於テハ「ソ」聯邦ノ工業分布圖

在ソヴィエト聯邦日本大使館

ハ天然富源分布圖ト殆ント一致スルニ至ルヘシ今一例トシテ第二次五年計畫ニ依ル電力分布状態ノ變化ヲ示セハ左ノ如シ

地名	一九三二年	一九三七年
舊工業地帯（「レ」ニングラード州、「モ」スクワ州、「イ」ワノフスカヤ州及「ゴ」リコフスキー地方）	三四九七	三〇四三
「ヴォ」ルガ流域（「タ」タリヤ、「ヴ」オルガ中流地方及「ヴ」オルガ下流地方）	五〇七	五六六
「ウ」クライナ共和國	三〇二六	二二、五五
「ウ」ラル、「バ」シキリヤ、「カ」ザクスタ	一、二五七	一八、二五
「シ」ベリヤ	〇八七	二、二一
東部「シ」ベリヤ及極東地方	四六二	六、三三
「ザ」カフカージエ	〇七九	三、四七
中央亞細亞		

在ソヴィエト聯邦日本大使館

斯ノ如ク第二次五年計畫後ニ於テハ「ソ」聯邦内限ナク工業發達スヘキヲ以テ「ソ」聯邦ニハ「スターリン」ノ指摘セル如ク純農業地方及純工業地方ノ區別無ク又純消費地方及純生産地方ノ區別モ無キニ至ルヘシ以下各地方別ニ之ヲ略述セン

(イ)「ウラル」州

「ウラル」ハ第二次五年計畫ニ依リ「ソ」聯邦中最モ重要ナル工業中心地ノ一ト成リ一九三七年ニ於ケル其ノ工業各部門生産高ノ聯邦總生産高ニ對スル比率ハ電力一割三分三厘、石炭一八分七厘、鉄鐵一割四分五厘、銅一割四分二厘、紙一割四分ニシテ聯邦諸地方中石炭一第三位、黑色冶金業一第二位、銅一第一位、「アルミニウム」一第二位、機械一第四位、事業用木材一第二位ヲ占メ化學工業ニ於テモ亦極メテ重要ナル地位ヲ占ムルニ至ルヘシ彼ノ「マグニトゴールスキー」、「タギリスキー」及「バカリスキー」冶金工場、「ウラル」機械工場、「ニジネタギリスキー」車輛製作場、

在ソヴェエト聯邦日本大使館

「チエリヤビンスキー」ト「トラクター」工場、中部「ウラル」銅工業「コムビネート」等々ノ名稱ハ「ウラル」ノ經濟的發達ヲ表象スルモノナリ又第一次五年計畫中運輸機關ノ不備ハ「ウラル」ノ大ナル弱點ナリシニ鑑ミ第二次五年計畫ニ於テハ既設鐵道七百四十八軒ノ電化及新鐵道ノ建設等ニ依リ隣接各地方トノ聯絡及州内部ノ運輸網ノ根本的改善ヲ行フコトトナリ居レリ

農業ニ於テハ小麥、野菜及畜類飼料用作物ノ播種面積ヲ著シク擴張シ且「トラクター」ノ馬力數ヲ現在ノ四倍半ニ増加ヘ主要農業部門ノ機械化率ハ八割ニ達スセシムヘキ計畫ナリ

電力問題ハ「ウラル」州ノ重要問題ニシテ一九三二年ニ於テハ中部「ウラル」ノ電力需要量六萬三千「キロワット」ニ對シ其ノ供給量ハ僅カ五萬「キロワット」ニ過キス又南部「ウラル」及「ウラル」西北部地方ニハ一ノ頼ムニ足ルヘキ發電所無カリシ状態ナリシヲ以テ第二次五年計畫ニ依リ「ウラル」ノ發電力ヲ現在ノ約三倍ニ増加

在ソヴェエト聯邦日本大使館

セシムルコトトナレリ
 其ノ他輕工業及食糧品工業モ大ニ開發セラレ又住宅建設資金モ一倍半ニ増加セラルヘキヲ以テ勤勞階級ノ生活水準ハ著シク向上スルニ至ルヘシ

(四)「バシキルスカヤ」自治共和國
 「バシキリヤ」ハ第二次五年計畫ニ於テ主トシテ冶金業、林業、石油採出業及粒穀農業ニ力ヲ注クヘシ新ニ建設セラルヘキハ發動機製造場、自動車工場、石油「コムビネート」、被服工場、履物工場及食糧品工場(十五)等ナルカ右ノ外發電所及鐵道ヲ改善シ野菜、小麥及飼料用作物ノ播種面積ヲ擴張シ且「トラクター」ノ數ヲモ三倍ニ増加セシムル計畫ナリ

(イ)西部「シベリヤ」地方
 本地方ニ於テハ重工業著シク發達シ其ノ各部門生産高ノ聯邦總生産高ニ對スル比率ハ石炭一割三分三厘、銑鐵一七分一厘、展鐵一六

在ソヴェエト聯邦日本大使館

分九厘、亞鉛一四割二分二厘トナリ且機械製造高ハ現在ノ六倍ニ又發電力ハ四、六倍ニ増加セラレ其ノ他化學工業及石油採出業モ大ニ開發セラルル筈ナリ本地方ノ工業中心地「クズバス」ハ「スターリン」ノ言ニ悖ラス第二次五年計畫ニ依リ名實共ニ「ソ」聯邦第二ノ「ドンバス」タルニ至ルヘシ

輕工業及食糧品工業ハ從來本地方ニ於テハ殆ント其ノ存在ヲ認メラレ居ラサリシカ第二次五年計畫ハ右兩部門ヲモ開發シ一般消費品ノ保障ヲ期シ居レリ

農業モ亦著シク發達シ播種總面積ハ二割三分増加セラレ「トラクタ」配給所ハ現在ノ二倍トナルノミナラス共營牧畜業モ大擴張セラレテ西部「シベリヤ」ハ「ソ」聯邦ニ於ケル主要ナル牛乳及「バター」産地トナルヘシ

次ニ本地方ハ第二次五年計畫中 石炭九百萬噸ヲ諸地方ニ供給スル外多量ノ木材ヲ中央亞細亞及「カザクスタン」ニ供給スヘキコトト

在ソヴェエト聯邦日本大使館

ナリ居レリ從テ之ニ伴ヒ運輸機關殊ニ「シベリヤ」本線ヲ改善シ且新鐵道ヲモ建設セサルヘカラス
 最後ニ第二次五年計畫ハ工業ノ躍進的發達カ「ノヴォシビルスク」「スターリンスク」「オムスク」「バルナウル」等ノ人口急激ナル膨張ヲ齎スヘキコトヲ豫見シ右諸都市ニ於ケル住宅建設ニ特別ノ注意ヲ拂ヒ居レリ

(二)「カザクスカヤ」自治共和國

本共和國ハ各種有色金屬、石炭及石油ノ豐富ナル産地ヲ有スルヲ以テ右開拓ニ最大限度ノ努力ヲ爲スト共ニ新ニ機械製造業ヲ組織シ且原料ニ恵マレ居レル輕工業及食糧品工業ノ發達ヲ計ルトキハ「ソ」聯邦屈指ノ工業地トナルヘシ
 然レトモ「カザクスタ」ノ産業中最モ重要ナル意義ヲ有スルハ牧畜業ニシテ現在「カザクスタ」ノ「ソフホズ」ハ聯邦全「ソフホズ」ノ所有スル大有角家畜及羊ノ二割ヲ所有シ居リ而モ牧畜業ハ尙

在ソヴェト聯邦日本大使館

充分發達ノ餘地アルヲ以テ黨及經濟機關ハ家畜ノ頭數増加及素質改良ニ全力ヲ傾注セサルヘカラス
 其ノ他第二次五年計畫ニ於テ「カザクスタ」ハ運輸機關ノ建直及農業地及工業地ニ對スル給水事業ヲ行ハサルヘカラス前者ハ廣大ナル「カザクスタ」ト聯邦内經濟的中心地トノ聯絡ヲ圓滑ナラシメ又後者ハ「カザクスタ」ヲ米、棉花等ノ大産地タラシムルト共ニ工業地ノ發達ヲ促進スルモノナリ

(四)東部西伯利亞

本地方ハ鑛業（石炭、金等）及林業ヲ益々發達セシメ黑色冶金業ヲ新ニ組織シ且機械製造業及發電所建設事業ヲ擴張スル外農業（主トシテ牧畜業）、輕工業及食糧品工業ヲ開發セサルヘカラス

(五)「ブリヤト、モンゴリスカヤ」自治共和國

本共和國ハ元來聯邦中屈指ノ牧畜地方ナリシカ第二次五年計畫ニ依リ工業モ著シク發達シ「ヴェルフネウーヂンスク」ニハ鐵道工場、

在ソヴェト聯邦日本大使館

挽材工場、發電所等建設セラルル管ナリ
 (ト)「ヤクーツカヤ」自治共和國
 本共和國ハ金産出高ヲ益々向上セシムルト共ニ燃料根據地ヲ建設シ
 林業及其ノ他ノ工業部門ヲ開發シ且農作物ノ播種面積ノ擴張及牧畜
 業ノ發達ヲ計リテ食糧ノ自給策ヲ講セサルヘカラス
 (フ)極東地方
 本地方ハ經濟的及政治的見地ヨリ重大ナル意義ヲ有スルヲ以テ幾分
 詳細ニ説明スヘシ
 第二次五年計畫ニ依リ極東地方ノ先ツ第一ニ爲スヘキハ運輸機關ノ
 改善ナリ即チ陸ニ於テ烏蘇里鐵道複線、「バイカル、アムール」鐵
 道、幹線道路及自動車組立工場等ヲ建設スルト共ニ水運ニ於テハ黑
 龍江航路ヲ調整シ浦潮、勘察加及其ノ他ノ港灣ヲ改善シ且造船事業
 ニ力ヲ注キ「コムソモールスク」ノ大造船所ヲ完成シ「ダリザヴォ
 ード」ヲ根本的ニ建直ササルヘカラス

在ソヴェエト聯邦日本大使館

次ニ重要ナルハ燃料殊ニ液體燃料問題ノ解決ナルカ第二次五年計畫
 ハ薩哈噠ノ石油ヲ精製スヘキ「ハバロフスク」「ネフチコムピネー
 ト」ノ完成ニ依リ極東地方ノ自動車及「トラクター」ノ燃料ヲ保障
 シ更ニ一九三七年ノ石油探出高ヲ八十萬噸(一九三二年ニハ二十萬
 二千八百噸)ニ達セムル外石炭探掘高(新炭坑「ライチハイ」、「
 プレーヤ」等ヲ開拓ス)ヲモ一九三七年ニハ六百五十萬噸(一九三
 二年ニハ百八十九萬二千噸)ニ達セシムヘキ豫定ナリ
 第三ニ極東ノ全般的發達ノ爲重大ナル意義ヲ有スル冶金業ハ一九三
 七年ニハ最初ノ銑鐵五萬噸ヲ供給スルコトトナリ居レリ又輸出貿易
 ノ見地ヨリ極メテ重要ナル漁業ノ漁獲高ハ一九三二年ニハ三拾二萬
 噸ナリシカ一九三七年ニハ三拾八萬噸ニ増加シ全聯邦漁獲高ノ二割
 三分六厘ヲ占ムルコトトナルヘク林業ノ發達ニ付テモ多大ノ注意ヲ
 拂ヒ居レリ
 農業及輕工業ヲ組織スルコトハ極東ニ於ケル古キ懸案ノ一ナリシカ

在ソヴェエト聯邦日本大使館

第二次五年計畫ニ依リ農作物ノ播種總面積ハ二割六分二厘擴張セラレ(内稻作地ノミニ付テハ二十割、蔬菜地ノミニ付テハ十一割二分八厘擴張ノ筈)、「トラクター」ノ數ハ五割二分増加セラレ且牧畜業モ著シク發達スヘキヲ以テ第二次五年計畫後ニ於テハ極東ハ極東自體ノ農産物ノミニテ其ノ需要ヲ滿シ得ヘク又製糖工場、製菓工場「マカロニ」工場、被服工場、履物工場、「ボタン」工場及其ノ他各種食糧品及一般消費品工場建設セラルル筈ナリ
 最後ニ極東地方ノ開發上最モ緊急ナル課題ハ人口増加問題ナルカ右ニ關シテハ「スターリン」ノ發議ニ基キ極東地方ノ住民ニ莫大ナル特典ヲ供與シタルヲ以テ之カ解決ハ既ニ保障セラレ居ルモノト謂フコトヲ得ヘシ

(9)「レニングラード」州
 國民經濟上新地方ノ發達ハ舊地方ノ比重ヲ低下セシムヘキ理ナルニ拘ラス第二次五年計畫中ニ於ケル「レニングラード」州ノ機械製造

在ソヴェエト聯邦日本大使館

高ハ聯邦總製造高ノ二割八厘、製紙高ハ一割八分六厘六毛、發電量ハ九分三毛、金屬「アルミニウム」生産高ハ一割二分五厘、泥炭採掘高ハ一割三分五厘、片岩採取高ハ三割、事業用木材伐出高ハ七分四厘五毛、漁獲高ハ一割八分二厘九毛ニシテ「レニングラード」州ハ第二次五年計畫末迄製紙業ニ於テ聯邦中第一位、機械製造業ニ於テ第二位、泥炭採掘高及綿織物生産高ニ於テ何レモ第三位ヲ維持シ又片岩採取高及漁獲高ニ於テハ何レモ第二位ニ進出スヘシ就中機械製造業ニ於テハ依然聯邦機械製造業ノ中樞地トシテ新機械ノ製造及技術幹部ノ養成ニ當リ其ノ他化學工業、林業、機業、食糧品工業等ニ於テモ著シキ發達ヲ遂クヘシ

本州ノ諸問題中特ニ一言スヘキハ燃料、電力、建築材料及運輸機關ノ問題ナリ右四問題ハ第一次五年計畫中未解決ノ儘ナリシカ第二次五年計畫ハ燃料問題ニ於テハ泥炭採掘量ヲ二、二倍ニ、片岩採取量ヲ十一倍ニ、「ボロヴィチスキ」區ノ採炭量ヲ五十萬噸ニ増加シ

在ソヴェエト聯邦日本大使館

且建築材料問題ニ於テハ耐火煉瓦ヲ始メ各種材料ノ生産高(但シ「セメント」ハ依然他地方ヨリノ輸入ヲ餘儀ナクセラルヘシ)ヲ著シク増加シ以テ右二問題ヲ部分的ニ解決シ又電力問題ニ於テハ水力發電所及火力發電所網ヲ發達セシメテ之ヲ全幅的ニ解決シ更ニ運輸機關問題ニ於テモ「レニングラード」市ヲ中心トスル運輸機關網ノ建直、複線建設及「ムルマンスク」鐵道ノ電化ヲ行フト共ニ白海「バルチック」海間運河及「マリインスカヤ」水路ヲ益々發達セシメテ右問題ノ完全ナル解決ヲ期シ居レリ尙商業ニ於テモ小麥ノ産額ヲ現在ノ十八倍以上ニ増加シ家畜ノ頭數及牛乳生産高ヲモ著シク増加スル豫定ナリ

(又)「モスクワ」州

「モスクワ」州ハ第一次五年計畫ニ依リ機械製造業、化學工業等ノ重工業ニ於ケルノミナラス輕工業ニ於テモ著シク發達シタルヲ以テ第二次五年計畫末ニ於ケル各部門生産高ノ聯邦總生産高ニ對スル比

在ソヴェエト聯邦日本大使館

率ハ泥炭一割七分、電力一割四分一厘、銑鐵一四分、機械一割三分四厘、綿織物一割一分二厘、毛織物一割三分五厘ヲ示スニ至ルヘシ「モスクワ」州ハ「ソ」聯邦國民經濟全部門ノ技術的建直上最も重要ナル役割ヲ演セサルヘカラス從テ第二次五年計畫ニ於テハ「モスクワ」州内ニ「ボブリコフスキー」化學「コムピネート」等ノ完成ノ外「カシラ」電氣機關車工場、「リヤザン」電球工場ヲ始メ各種新企業ヲ組織シ且「スターリン」自動車工場ノ大擴張ヲ行フコトトナリ居レリ

其ノ他輕工業、食糧品工業、動力、冶金業及燃料等ノ諸問題モ第二次五年計畫ニ依リ満足ニ解決セラルヘク就中「モスクワ」近郊ノ掘炭量ハ一九三七年ニハ一千萬噸以上ニ、又州内泥炭採掘量ハ六百七十萬噸ニ達シ且發電力モ一九三二年度ノ六十九萬二千八百「キロワット」ヨリ一躍百三十四萬「キロワット」ニ増加スヘシ
運輸業ニ於テハ「モスクワ」一「ヴォルガ」間ノ運河建設セラレ、
「モスクワ」市郊ノ生産品ヲ以テ各地ニ輸送シ又

在ソヴェエト聯邦日本大使館

「モスクワ」―「ドンバス」間新鐵道ハ「モスクワ」州ヘノ燃料供給ヲ一層圓滑ナラシムヘク更ニ「モスクワ」市ニ集中スル諸鐵道ノ電化モ行ハルル筈ナリ

最後ニ第二次五年計畫ニ於テハ「モスクワ」州ニ農業ヲ發達セシメ同州ヲ所謂消費州ヨリ生産州ニ變化セシムルノ目的ヲ以テ農作物（小麥ニ主力ヲ注ク）ノ播種面積ヲ百萬「ヘクタール」ニ擴張シ「コルホズ」及「ソフホズ」ニ輪作法ヲ實施セシメ「トラクター」配給所ヲ百八十新設シ且農業ノ主要過程ヲ器械化スル豫定ナリ

(四)「イワノフスカヤ」州

本州ハ第一次五年計畫中創設セラレタル重工業諸部門就中機械製造業及化學工業ヲ益々發達セシムルト共ニ其ノ特色タル機業ニ於テ生産品ノ質的改良ヲ行フノ外「ヤロスラーヴリ」ニ世界最大ノ貨物自動車工場ヲ建設シ其ノ他ニモ發電所、護謨及石綿工場、麻工場、被服工場等ヲ建設スヘキヲ以テ第二次五年計畫後ニ於テハ本州ハ「ソ」

在ソヴェエト聯邦日本大使館

聯邦屈指ノ工業地帯ト成ルヘシ

農業ニ於テハ粒穀物ノ播種面積三割三分七厘擴張セラレ麻ノ生産高及畜類飼料用作物ノ植付高モ著シク増加セラレ「トラクター」ノ馬力數ハ現在ノ約十倍即チ十七萬馬力ニ達スルニ至ルヘシ

(オ)「ゴリコフスキー」地方

本地方ハ第二次五年計畫中自動車ハ「ソ」聯邦全體ノ六割五分、工作機ハ五分ノ一、紙ハ一割八分、「ベニヤ」板ハ一割四分二厘、工業用木材ハ一割二分三厘ヲ出スコトナリ居レルカ殊ニ「ゴリコフスキー」自動車工場ニハ本地方ノ重工業ニ對スル全投資額ノ二割八分ヲ投資スル計畫ニシテ右工場ノ完成ハ本地方機械製造業ノ最大課題ト謂フヘシ

電力問題ニ關シテハ各所ニ新發電所ヲ建設スル外舊發電所ノ發電力ヲ倍加シ又燃料問題ニ關シテハ泥炭ノ採掘量ヲ二倍以上ニ増加セシメ石油精製所ヲモ建設スヘキ計畫ナルモ未タ燃料ノ完全ナル自給

在ソヴェエト聯邦日本大使館

自足ヲ實現スルニハ至ラサルヘシ
 農業ニ於テハ本地方ハ從來最モ著シキ消費地方ノ一ナリシカ第二次
 五年計畫ニ依リ「トラクター」ノ數ハ十八倍以上ニ増加セラレ且牧
 畜業モ大ニ開發セララル筈ナリ又「ゴリコフスキー」市ヲ中心トス
 ル運輸機關ノ建直行ハレ他地方トノ經濟的關係（金屬、石炭、石油
 等ノ輸入及機械、木材、化學工業品等ノ輸出）一層緊密トナルヘシ
 (7) 「ヴォルガ」中流地方
 本地方ハ第二次五年計畫中運輸機械製造業（「サマーラ」自動車工
 場、「オルスク」機關車工場等）、電気工業、石油精製業及農産物
 加工業ヲ著シク發達セシムル外新工業トシテ冶金業ヲ組織シ且輕工
 業及食糧品工業ニ於テモ四十ノ新工場ヲ建設スヘシ
 然レ共本地方ノ最大課題ハ農業ヲ更ニ一層發達セシムルコトナリ即
 チ粒穀物及工藝用作物ノ生産高ヲ向上セシメ良質家畜ノ増加ヲ計ル
 ト共ニ本地方從來ノ懸案タル灌漑事業ノ實現ニ向ツテ有ユル努力ヲ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

盡ササルヘカラス
 (6) 「タタールスカヤ」自治共和國
 本共和國ハ第二次五年計畫ニ依リ急速ニ工業化セラルヘク重工業、
 輕工業及食糧品工業ニ於ケル新設工場ハ二十五ニ達シ發電力モ現在
 ノ三倍以上ニ増加セララルヘシ從來本共和國ノ工業ハ主トシテ「カザ
 ン」市ニ集中セラレ居タリシカ第二次五年計畫ハ「カザン」一「ブ
 グリマ」鐵道ノ建設ヲ豫定シ居レルヲ以テ右完成ノ曉ハ新ニ聯邦諸
 地方トノ交通ノ途開カレ工業モ自ラ各地ニ分布セラルルニ至ルヘシ
 農業ハ機械化ノ急速ナル進展（「トラクター」ノ馬力數ハ現在ノ一
 萬七千三百馬力ヨリ二十萬馬力トナルヘシ）ニ依リ目覺シキ發達ヲ
 遂クヘク家畜殊ニ早熟家畜ノ頭數モ著シク増加セララルヘシ
 (8) 「ヴォルガ」下流地方
 本地方ハ第一次五年計畫中開始シタル機械製造工場ヲ完成スルト共
 ニ毎年三噸型自動車十萬臺ヲ製造スヘキ自動車工場及時計工場ヲ建

在ソヴィエト聯邦日本大使館

設シ「スタリングラード」ノ「トラクター」工場ヲ「チエン」附「トラクター」製造工場ニ改造シ又良質冶金業、石油精製業及挽材業ヲモ大ニ開發セサルヘカラス

本地方ハ從來燃料ハ凡テ之ヲ他地方ヨリ輸入シ居タリシカ第二次五年計畫ニ依リ片岩採取ヲ開始シテ燃料問題ノ解決ニ一步ヲ進メ且發電力モ現在ノ二倍半ニ増加セシメ又漁業ヲ發達セシムルト共ニ他方農産物ヲモ原料トシ食糧品製造業（新工場二十建設ノ筈）ヲ組織スル筈ナリ

最後ニ本地方ノ重要問題ハ運輸機關ノ改善及灌溉事業ノ遂行ナルカ前者ニ關シテハ第二次五年計畫末迄ニ「ヴォルガ」ー「ドン」河間運河即チ黒海及「カスピ」海ヲ連結スヘキ大運河完成セラレ又後者ニ關シテハ地水ヲ利用シテ六萬五千「ヘクタール」ノ灌溉ヲ遂行スルト同時ニ將來「ヴォルガ」地方灌溉大計畫ヲ實現センカ爲ノ準備的事業ヲ行フヘシ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

(外)北高架索地方

本地方ニ於ケル新設企業ノ數ハ約五十（機械製造工場八、肉類「コムビネート」三、製糖工場二、果物及野菜「コムビネート」五、「バター」及「チーズ」工場五、「キヤラメル」工場二、冷凍場二等）ヲ算スル筈ナルカ本地方ノ最も重要ナル企業ハ石油工業ニシテ一九三七年ノ採油量ハ一千二百萬噸（一九三二年ハ九百萬噸）ニ達シ石油精製及輸送ニ付テモ偉大ナル計畫アリ

農業ハ集團化ノ完成及器械化ノ進展ニ依リ收穫率ヲ著シク向上セシメ且牧畜業モ盛ントナルヘキヲ以テ第二次五年計畫後ニ於ケル北高架索ハ聯邦屈指ノ農牧地トナルヘシ

最後ニ「ヴォルガ」ー「ドン」河間運河ノ本地方ニ與フヘキ偉大ナル利益ヲモ忘却スヘカラス右完成ノ曉ハ「ドン」河航運業ハ一大變革ヲ來スヘク「ロストフ」ニハ海港設置セラルルコトトナリ居レリ

(レ)「クリミヤ」自治共和國

在ソヴィエト聯邦日本大使館

本共和國ノ主要課題ハ「ケルチ」ノ鐵鑛ヲ原料トシ「ヴォイコフ」
 冶金工場ノ發達ヲ計ルト共ニ更ニ「カムイシ、ブルンスキー」「コ
 ムビネート」(右ハ「マリウイボル」工業地ヘ「アグロメリート」
 ヲ供給シ且複雑ナル「ケルチ」鐵鑛ノ正シキ利用ヲ保障スヘキモノ
 ナリ)ヲ建設スルコトナルカ右ノ外發電力ハ二倍半ニ増加セラレ^{造船}
 業(「セバストーボル」)製鹽業、化學工業、被服製造業、漁業、
 罐詰工業、葡萄栽培及其ノ他ノ園藝、良質小麥ノ栽培等モ著シク發
 達スヘシ

又本共和國ハ氣候良好ニシテ聯邦隨一ノ健康地ナルヲ以テ療養地ト
 シテノ設備ヲ完備セシメサルヘカラス

(イ) 中央黒土州

本州ニ於テハ黑色冶金業、機械製造業、石油精製業、化學工業、輕
 工業及食糧品製造業著シク發達スヘク就中食糧品製造業ハ本州カ小
 麥、砂糖大根、向日葵等ノ栽培及牧畜業ノ盛ナル地ナル關係上特ニ

在ソヴェエト聯邦日本大使館

著シキ發達ヲナス管ナリ

(イ) 白露共和國

本共和國ノ最も重要ナル課題ハ燃料問題ノ解決ニシテ殊ニ共和國內
 ニ存在セル泥炭ノ採掘ニ一層ノ努力ヲ爲ササルヘカラス第二次五年
 計畫ハ右泥炭ヲ主要燃料トシ新ニ「ゴーメル」及「ミンスク」ニ大
 規模ノ發電所ヲ建設スルコトヲ豫定シ居レリ(從來「オシノフカ」
 發電所カ本共和國内唯一ノ大規模ノ發電所ナリキ)

輕工業ハ本共和國ノ特色ニシテ殊ニ麻工業、製紙業等ハ豊富ナル原
 料ニ恵マレ急速ノ發達ヲナスヘク又機械製造業、化學工業、牧畜業
 等モ著シク發達スヘシ

(イ) 西部州

本州ハ麻(ドルグネツ)ノ大産地ニシテ其ノ植付面積ハ聯邦總植付
 面積ノ四分ノ一ニ達スルヲ以テ之カ收穫率ノ増進ト共ニ「スモレン
 スク」、「ヤジマ」等ノ麻工業ハ益々發展スヘシ其ノ他運輸機械製

在ソヴェエト聯邦日本大使館

造業、化學肥料製造業、泥炭採掘業（一九三二年ノ採掘高ハ七十萬六千二百噸ナリシカ一九三七年ニハ百四十萬噸トナルヘシ）及林業ノ發達モ著シク又農業ニ於ケル小麥ノ播種面積ハ第二次五年計畫末迄ニ現在ノ五倍ニ擴張セラルヘシ

(イ) 北部地方

本地方ハ林業ヲ技術的ニ建直シ之ヲ合理化スルト共ニ「ベチヨラ」河流域ノ石炭及石油産地ノ開發ニ着手シ且麻及小麥ノ播種面積ノ擴張及牧畜業ノ發達ヲ計ラサルヘカラス

(ウ) 「カレリスカヤ」自治共和國

本共和國ノ主要課題ハ林業ノ開發及白海「バルチツク」海間運河ノ發達ヲ計ルコトナリ右運河ハ單ニ交通上偉大ナル意義ヲ有スルノミナラス水力發電所建設ヲ可能ナラシムルヲ以テ將來「ムルマンスク」鐵道ヲ電化シ「ヒビヌイ」鑛業地帯ヘノ電力供給ヲ保障スルコトヲ得ヘシ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

本共和國ハ從來他地方ヨリ食糧品ヲ輸入シ居タリシカ第二次五年計畫ニ依リ農牧業開發セラルヘキヲ以テ右輸入量ハ著シク減少スヘシ

(イ) 「ウクライナ」共和國

第二次五年計畫中「ウクライナ」ハ石炭採掘業、冶金業、機械製造業、化學工業、電氣建設業及大規模ノ社會主義農業ニ於テ聯邦屈指ノ地方ト成リ且輕工業及食糧品製造業ニ於テモ著シキ發達ヲ遂クヘシ即チ一九三七年ニハ銑鐵鑄造高ヲ一千六十萬噸（聯邦總鑄造高ノ五割五分八厘）、展鐵鑄造高ヲ七百三十萬噸（同五割二分一厘）石炭採掘高ヲ聯邦總採掘高ノ四割八分、鐵鑛採掘高ヲ一千七百五十萬噸（聯邦總採掘高ノ四割七分四厘）、「アルミニウム」生産高ヲ聯邦總生産高ノ五割、「トラクター」製造高ヲ三割六分、機關車製造高及滿俺採掘高ヲ何レモ六割一厘、「カルシウム」曹達生産高ヲ四割八分ニ増加セシメ就中石炭工業ノ中心地「ドンバス」ヲ益々發達セシムル爲該地ノ住宅建設及給水事業ヲ完成シ輕工業（紡績工場、羅紗工場、靴工場、靴下工場、石鹼工場等ノ建設）ニ十億留

在ソヴィエト聯邦日本大使館

餘ヲ投資シ食糧品工場八十六ヲ建設シ「ドンパス」ー「モスクワ」間幹線鐵道ヲ完成シ且「ドンパス」ー「クリヴオイ、ローグ」間鐵道ノ建設ニ着手シ又電氣建設業ニ於テハ世界最高ノ發達ヲ遂ケ其ノ發電量ヲ十七億「キロワット」(聯邦總發電量ノ二割五分八厘)ニ達セシムヘシ

農牧業ニ於テモ依然聯邦主要農牧地タルノ面目ヲ維持シ一九三七年ニハ農作物(小麥、砂糖大根、豆、大麥等)ノ播種面積ヲ二千六百九十萬「ヘクタール」ニ達セシメ且農業機械化(「トラクター」配給所ヲ現在ノ五七三ヨリ一千ニ増加セシムル筈)等ニ依リ收穫率ノ向上ヲ計ルヘキヲ以テ一九三七年ノ穀物收穫高ハ一九三二年ニ比シ六割二分七厘(小麥ノミニ付テハ七割七分)増加スヘク牧畜業モ亦著シク發達ス

(ウ)「ザカフカズスカヤ」共和國

本共和國ノ主要産業ハ石油採掘業ナルカ第二次五年計畫ハ「ロク、

在ソヴィエト聯邦日本大使館

ボタン」、「カラ、スルテペ」等ノ新産地ノ開拓ヲ豫定シ居レルヲ以テ一九三七年ニハ本共和國ノ石油生産高ハ三千萬噸(一九三二年ニハ一千二百六十萬噸)ニ達スヘク其ノ他有色金屬工業、化學工業(輕工業(新工場二十建設ノ筈)及食糧品工業(新工場三十七建設ノ筈)等ノ發達モ著シク一九三七年ニハ機械製造高ハ現在ノ三十四割、履物製造高ハ七倍、石油採出高ハ二十四割、綿織物生産高ハ四十六割、履物製造高ハ五倍、罐詰製造高ハ三十八割ニ増加セラルヘシ、(一九三五年ニハ「ダシケサンスキー」冶金工場ノ建設モ開始セラルル筈ナリ)

第二次五年計畫ハ更ニ動力問題ニ特別ノ注意ヲ拂ヒ十發電所新設若ハ擴張セラルルコトトナリ居レルヲ以テ(就中「カナキルスカヤ」發電所ノ發電量ハ八萬八千「キロワット」又「ギユムーシスカヤ」發電所ノ發電量ハ十四萬「キロワット」ニ達セラルル筈)一九三七年ニ於ケル本共和國ノ發電力ハ現在ノ十倍ニ増加シ運輸機關及

在ソヴィエト聯邦日本大使館

工業ニ對スル電力供給ヲ完全ニ保障シ得ルニ至ルヘシ
 農業ニ於テハ茶、「ラミー」、蜜柑、「レモン」等ヲ新ニ栽培スル
 ト共ニ從來ノ特産物タル葡萄、煙草及棉花ノ栽培並ニ園藝事業ノ發
 達ヲ計ラサルヘカラス而シテ之カ爲ニハ先ツ第一次五年計畫ニ依リ
 開始セラレタル灌溉事業ヲ完成シ農作地域ヲ擴張スルコト必要ナリ
 最後ニ交通機關ニ付一言センニ本共和國ハ從來交通不便ナリシ爲其
 ノ發達著シク阻害セラレ居タリシカ第二次五年計畫ハ右ニ鑑ミ幾多
 ノ新鐵道（「アリヤート」―「ヂュリフア」間、「イエフラーフ
 ー」―「ステバナケルト」間、「オチエムチールイ」―「アドレル」間
 及其ノ他）、複線ヲ鐵道、自動車道等ヲ建設シ且主要鐵道ヲ電化シ
 以テ交通機關ノ完備ヲ期シ居レリ（本共和國ニ於テハ交通機關ノ發
 達ハ石油ノ輸送問題ヲ解決スル點ニ於テモ重大ナル意義ヲ有セリ）

(四) 中央亞細亞
 中央亞細亞ハ「ソ」聯邦ニ於ケル最も重要ナル棉花產地ニシテ第一

在ソヴェエト聯邦日本大使館

次五年計畫中灌溉事業ニ依リ棉花ノ播種面積ハ六十萬「ヘクタール」
 以上ニ擴張セラレ「タヂキスタン」ニハ埃及棉花ノ栽培モ行ハルル
 ニ至リタルカ棉花收穫高ハ却テ減少シ來レリコレ一定面積ニ對スル
 收穫率低下ノ結果ナルヲ以テ第二次五年計畫ニ於テハ灌溉事業ヲ續
 行スルト共ニ肥料問題等ヲ解決シ「ヘクタール」ニ付十三、四「ツ
 エントネル」ノ收穫ヲ期シ居レリ「コルホズ」、「コルホズ」員及
 右指導機關ハ一層ノ努力ヲ爲シテ棉花收穫率ノ向上ヲ計ラサルヘカ
 ラス

中央亞細亞ハ古來棉花ノ大產地タリシニ拘ラス最近迄機業ヲ有セサ
 リキ即チ從來棉花ヲ中央地方ニ輸出シ右地方ヨリ綿織物ヲ輸入シ居
 タリシカ第一次五年計畫中「ウズベキスタン」、「トルクメニスタ
 ン」等ニ幾多ノ織物工場建設セラレ「タシケン」ニハ聯邦最大ノ
 機業「コムビネート」ノ建設開始セラレタリ而シテ第二次五年計畫
 ニ於テハ右「コムビネート」ノ完成ト共ニ更ニ「スタリナバード」

在ソヴェエト聯邦日本大使館

及其ノ他ニモ機業「コムビネート」建設セラルル豫定ナルヲ以テ中
 央亞細亞ハ一九三七年迄ニハ綿織物ノ自給自足ヲ實現シ得ルニ至ル
 ヘシ
 次ニ重要ナルハ天然富源ノ開拓ナリ中央亞細亞ハ銅、石炭、石油及
 其ノ他ノ地中埋藏物ニ富メルヲ以テ之カ開拓ニ努力スルト共ニ延テ
 工業ノ發達ヲ計ラサルヘカラス殊ニ機械製造業ニ於テハ「タシセリ
 マシ」ヲ完成シ「イリイチ」工場ヲ建直シテ將來機械輸入ノ必要ナ
 キヲ期セサルヘカラス
 最後ニ注意スヘキハ「トルクシブ」鐵道ナリ抑々「トルクシブ」鐵
 道ハ西伯利亞ノ穀物及木材ヲ中央亞細亞ニ輸送シ中央亞細亞ノ棉花
 及果物等ヲ西伯利亞ニ輸送スヘカリシモノナリシニ拘ラス現狀ニ於
 テハ殆ント所期ノ任務ヲ果シ居ラス然ルニ第二次五年計畫ニ依リ東
 部及西部西伯利亞ニハ「トルクシブ」ト聯絡シ中央亞細亞ヘノ木材
 輸送ヲ目的トスル幾多ノ新鐵道建設セラレ又西部西伯利亞ニハ中央

在ソヴェエト聯邦日本大使館

亞細亞ノ棉花ヲ原料トスヘキ機業「コムビネート」建設セラルヘキ
 ヲ以テ右鐵道ノ活用ニ對シテハ特ニ多大ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス
 以上諸問題解決ノ爲ニハ中央亞細亞ハ熟練幹部殊ニ地方民族出身ノ
 熟練幹部ヲ多數ニ養成セサルヘカラス右幹部養成ハ中央亞細亞ノ政
 治經濟問題中最モ緊急ノ問題ナリ
 五、「レーニン」及「スターリン」ノ旗幟ノ下ニ！
 第二次五年計畫ハ「ソ」聯邦ヲ限ナク包含スル偉大ナル計畫ナリ社
 會主義的生產方法ハ今ヤ「ソ」聯邦ニ於ケル唯一ノ生產方法ト成ラ
 ントス而シテ社會組織ノ建直ト共ニ人間自ラモ鑄直サレ傳統的陋習
 及偏見ハ「ソ」聯人ノ意識ノ中ヨリ日一日、否刻一刻ト驅逐セラレ
 「ソ」聯人ハ資本主義的色彩ヨリ完全ニ離脱シタル立派ナル社會主
 義者ト成リツツアリ
 第二次五年計畫「コハ「レーニン」主義ノ勝利ヲ立證スル偉大ナル
 計畫ナリ之カ遂行ハ世界史上不滅ノ意義ヲ有スルニ至ルヘシ「スタ

在ソヴェエト聯邦日本大使館

「リリン」ノ達見ハ右計畫樹立ニ際シ單ニ主義的方面ニ於ケルノミナ
 ラス運輸機關、輕工業、食糧品工業等ノ個々ノ具體的問題ニ關シテ
 迄天才的指針ヲ與ヘタリ而シテ「スターリン」後卓越セル指導ハ必
 スヤ右計畫ヲ遂行セシムヘシ「斯克テ「ソ」聯邦ハ勝利復勝利、一
 歩復一步光輝アル將來ニ向ツテ近付キツツアリ
 註、「クイブイシエフ」ノ報告ハ「イズヴェスチャ」ノ紙面四頁
 半ヲ占ムル龍大ノモノナルカ序論、「二三」及五ハ其ノ内容「ス
 ターリン」、「モロトフ」等ノ報告ト殆ント同様ナルニ付特ニ
 簡略セリ

在ソヴェエト聯邦日本大使館